

# 調査の結果 調査結果の解説

## 1 県政全般に関する意識調査

### (1) 防災に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている〉で3割台半ば

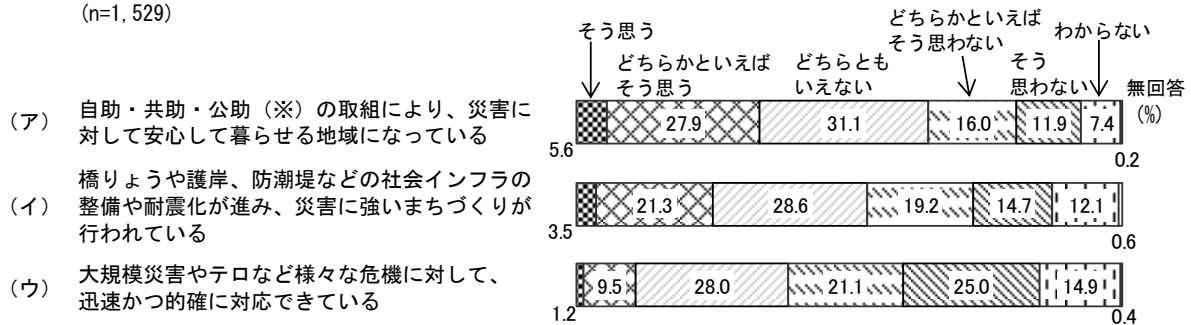
中長期的な視点に立った県政運営の基礎資料とするため、日頃、県民の皆さまが感じていることや思っていることについてお聞きいたします。

問1 あなたは、防災に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

（※）自助・共助・公助…「自助」とは、日頃から家庭で災害に備えるなど、自らの身の安全を自らが守ること、「共助」とは、近隣住民が助け合い、災害から自らの地域を守ること、「公助」とは、消防・警察や自治体による救助や支援のこと。

＜図表1-1＞防災に関する意識

(n=1,529)



防災に関する3つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている」(33.5%)で3割台半ばとなっており、以下、「(イ) 橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」(24.9%)が2割台半ば、「(ウ) 大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」(10.7%)が1割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」(46.0%)が4割台半ばとなっており、以下、「(イ) 橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」(33.9%)が3割台半ば、「(ア) 自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている」(27.9%)が約3割となっている。(図表1-1)

### 【地域別】

地域別にみると、「（イ）橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」の『そう思わない（計）』は“長生地域”（56.4%）と“夷隅地域”（54.5%）が5割台半ばで高くなっている。

「（ウ）大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」の『そう思わない（計）』は“長生地域”（61.5%）が6割を超え、“千葉地域”（51.2%）が5割を超えて高くなっている。（図表1-2）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている」の『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（33.6%）が3割台半ばで高くなっている。

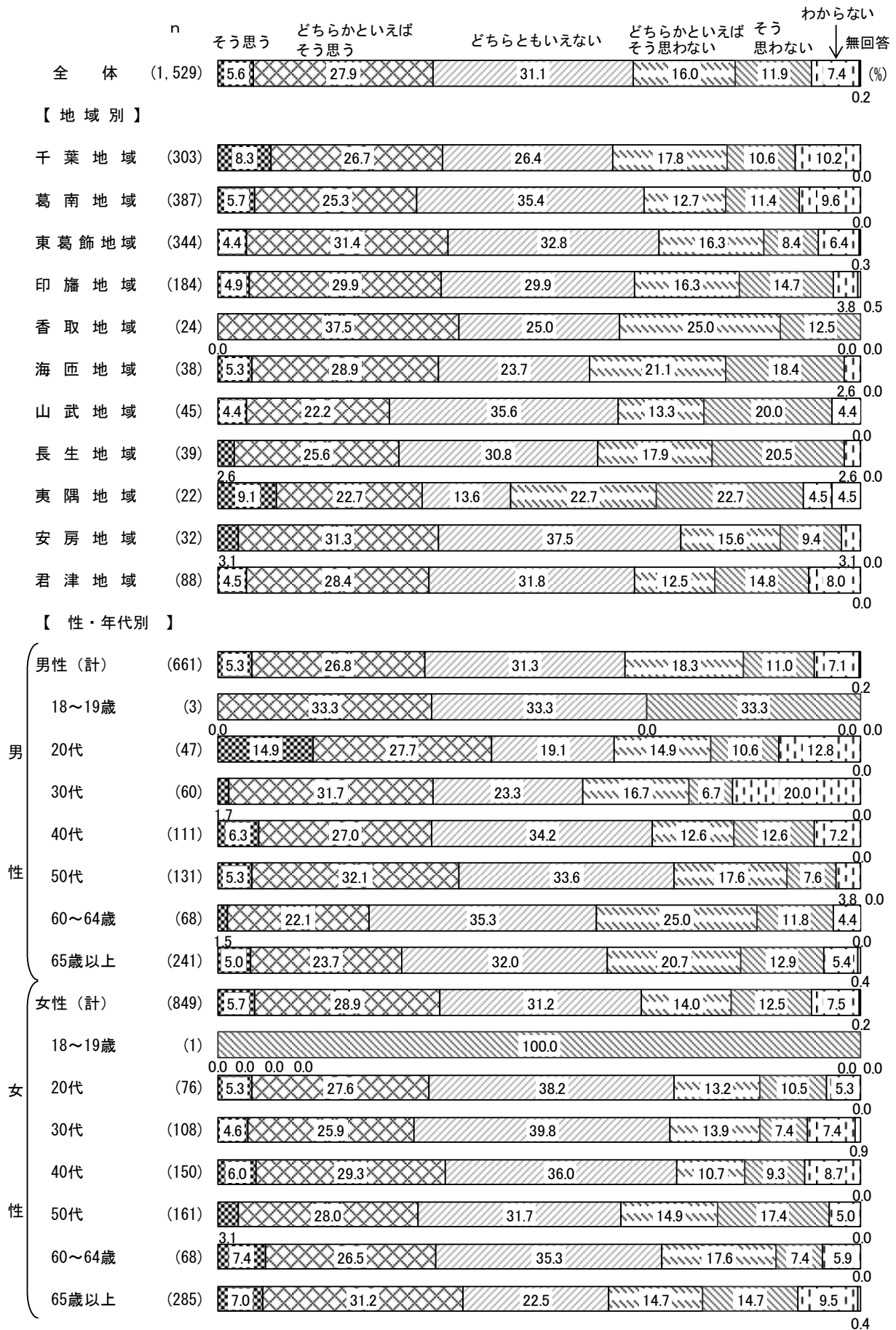
「（イ）橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」の『そう思う（計）』は男性の50代（34.4%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（39.4%）が約4割で高くなっている。

「（ウ）大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（60.3%）が6割で高くなっている。（図表1-2）

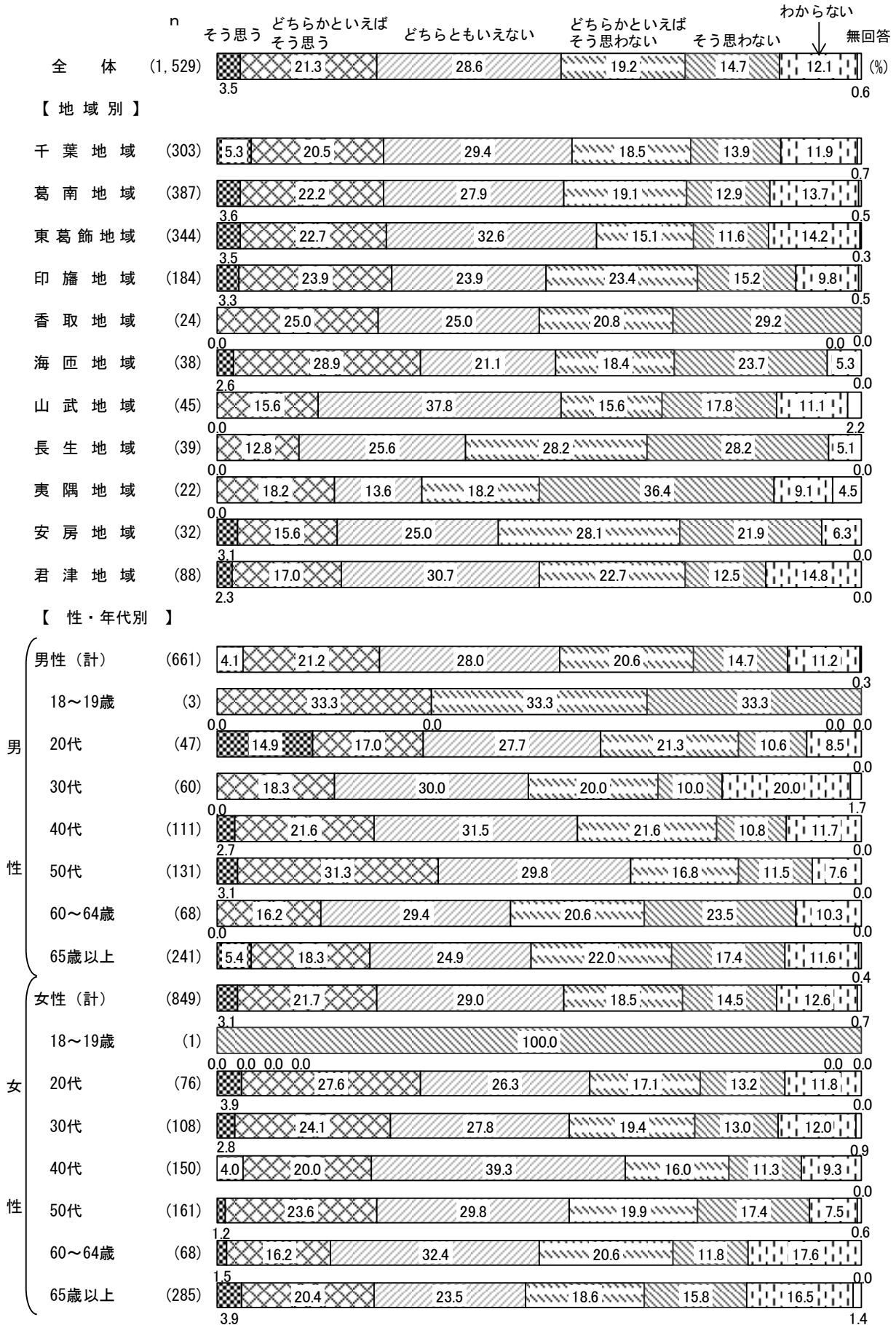
<図表1-2-1>防災に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている



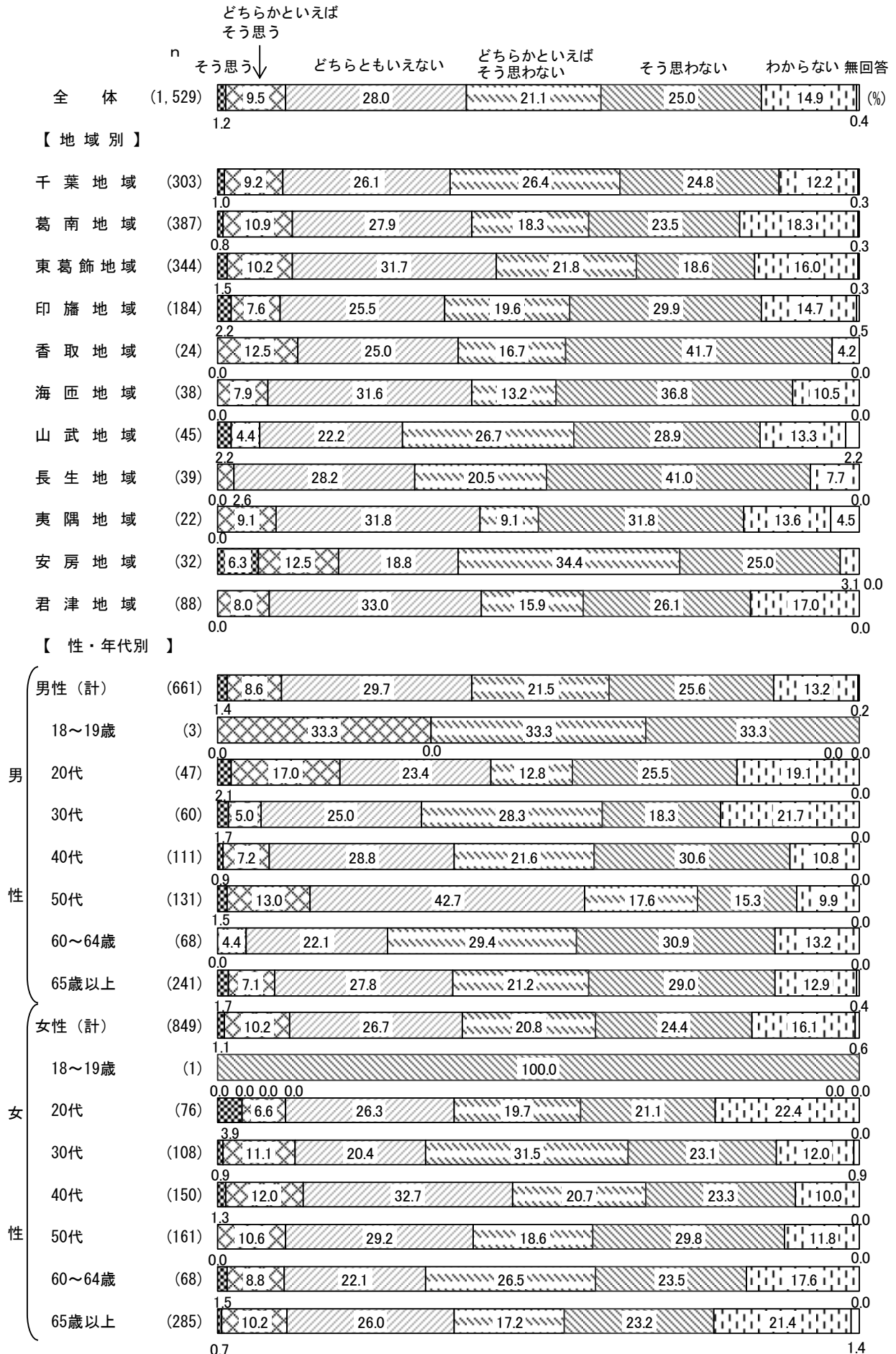
<図表1-2-2>防災に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている



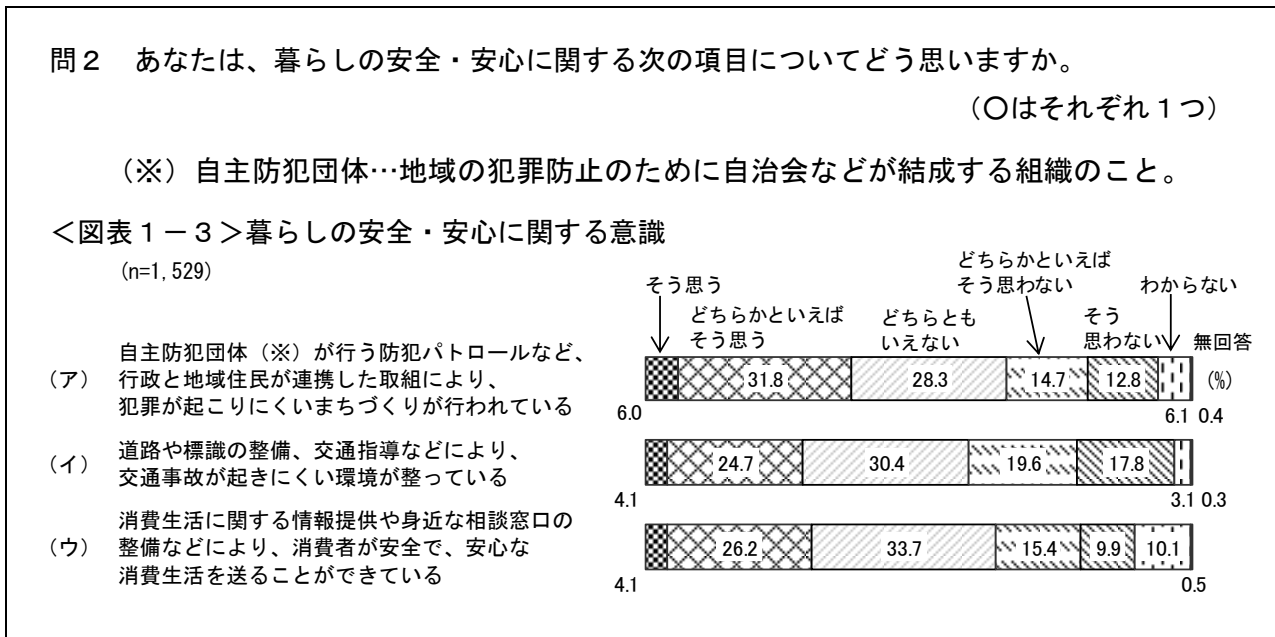
<図表1-2-3>防災に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている



## （2）暮らしの安全・安心に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起りにくいまちづくりが行われている〉で約4割



暮らしの安全・安心に関する3個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起りにくいまちづくりが行われている」(37.8%)で約4割となっており、以下、「(ウ) 消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」(30.3%)が3割、「(イ) 道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている」(28.7%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(イ) 道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている」(37.4%)が約4割となっており、以下、「(ア) 自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起りにくいまちづくりが行われている」(27.5%)が約3割、「(ウ) 消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」(25.3%)が2割台半ばとなっている。

（図表1-3）

**【地域別】**

地域別にみると、「（ア）自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起こりにくいまちづくりが行われている」の『そう思う（計）』は“東葛飾地域”（42.4%）が4割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“香取地域”（50.0%）が5割で高くなっている。

「（ウ）消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が4割を超えて高くなっている。（図表1-4）

**【性・年代別】**

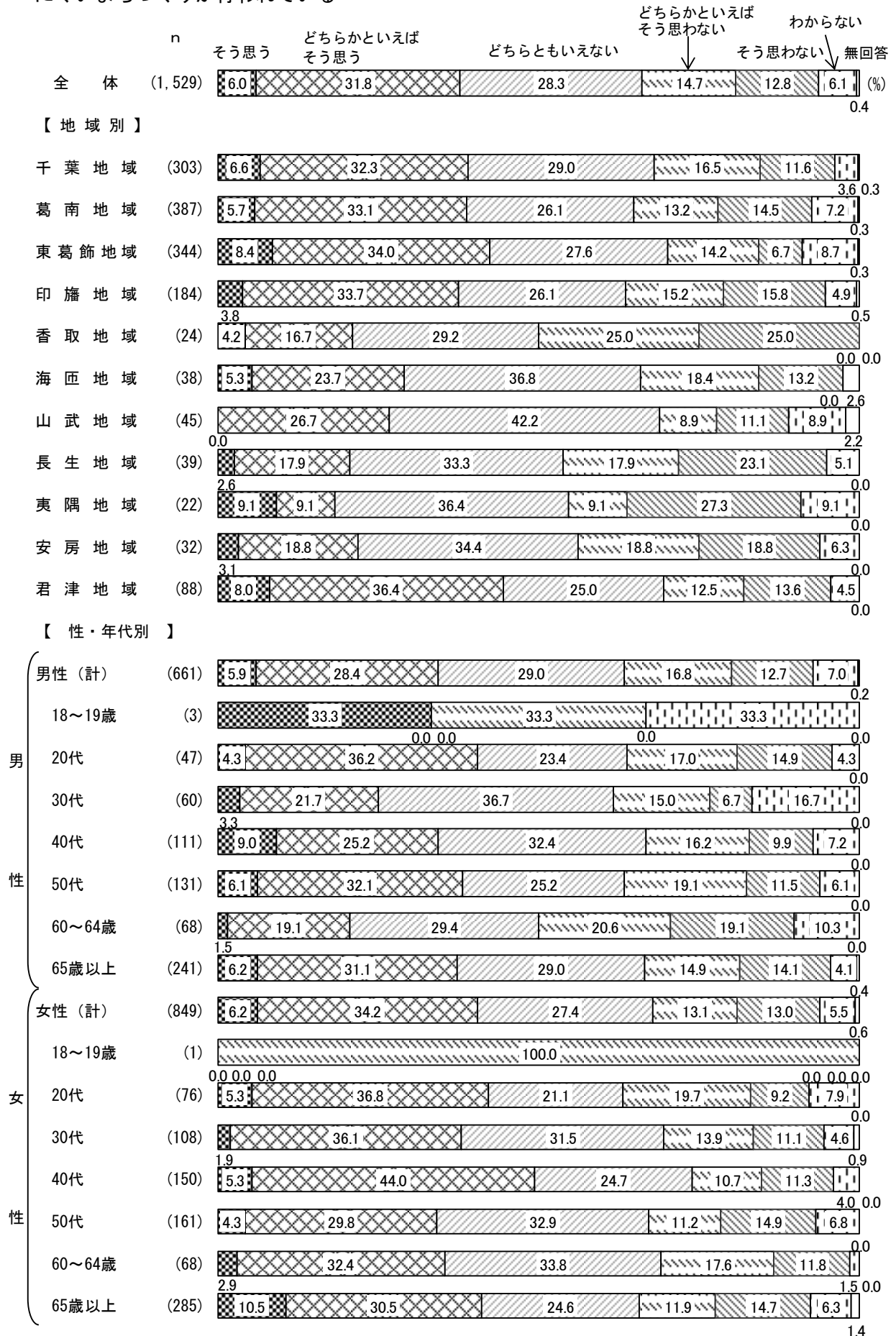
性・年代別にみると、「（ア）自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起こりにくいまちづくりが行われている」の『そう思う（計）』は女性の40代（49.3%）が約5割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（39.7%）が約4割で高くなっている。

「（ウ）消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」の『そう思う（計）』は男性の20代（46.8%）が4割台半ばで高くなっている。（図表1-4）

<図表1-4-1>暮らしの安全・安心に関する意識/地域別、性・年代別

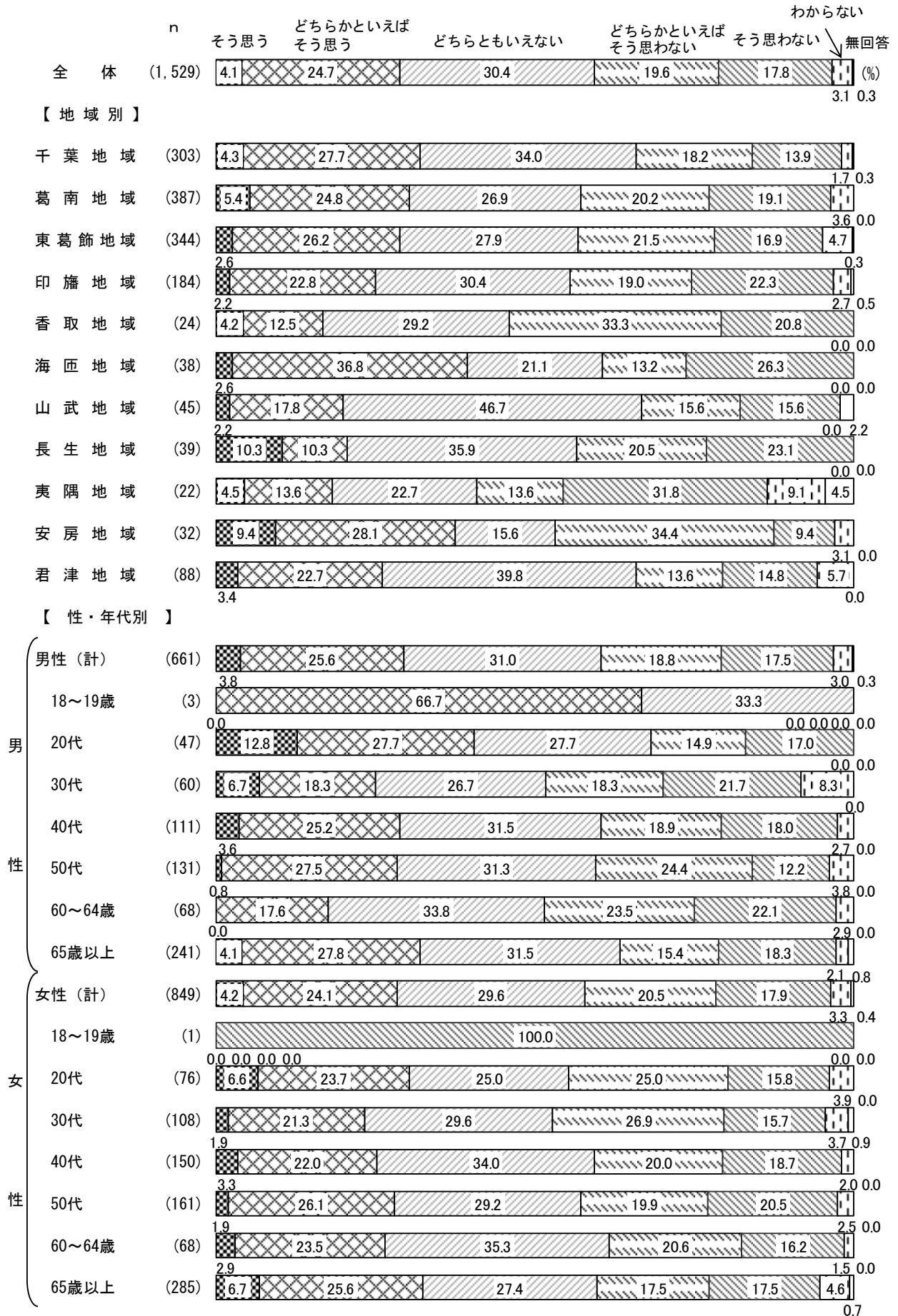
(ア) 自主防犯団が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起これにくいまちづくりが行われている





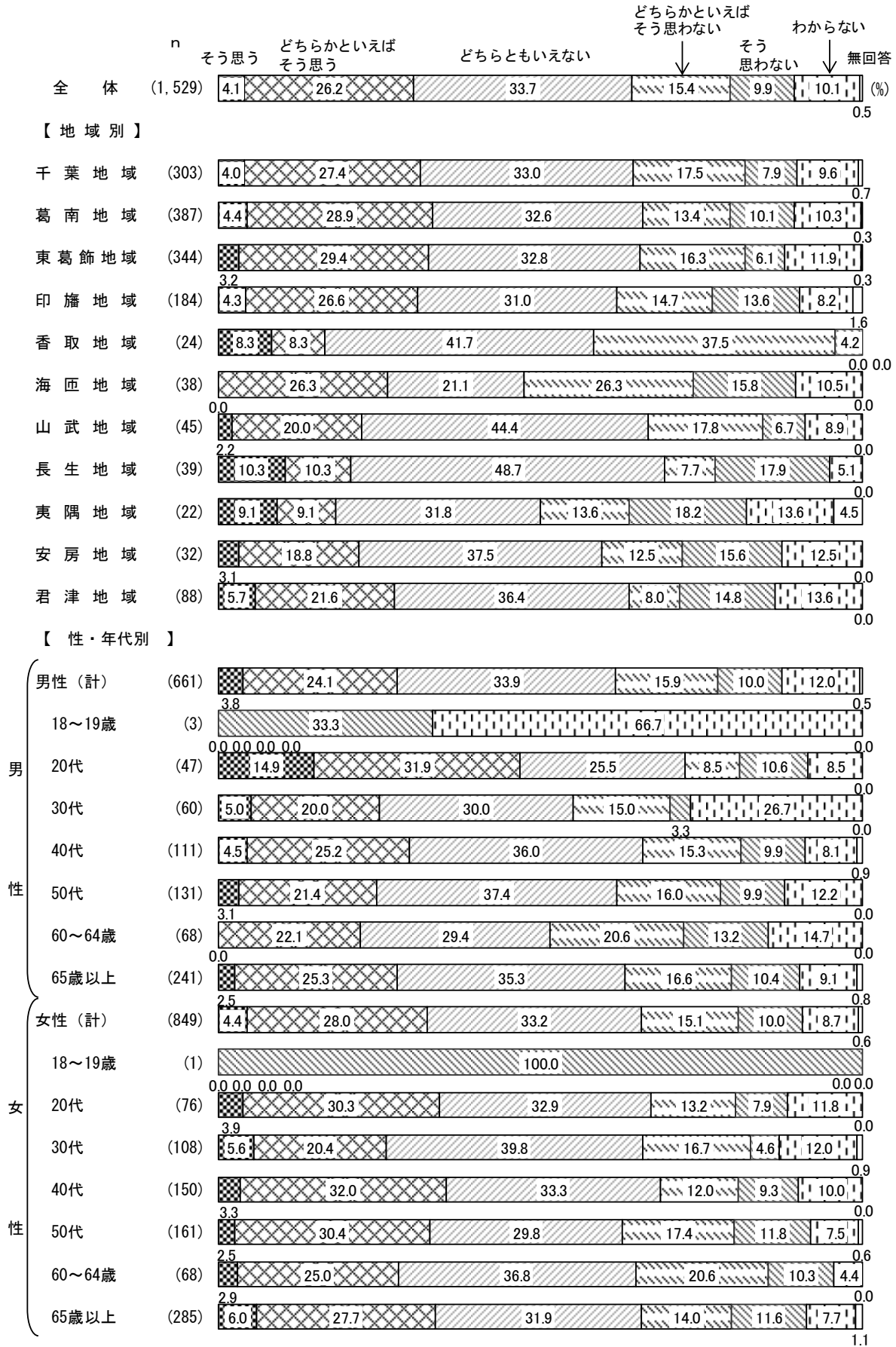
<図表1-4-2>暮らしの安全・安心に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている



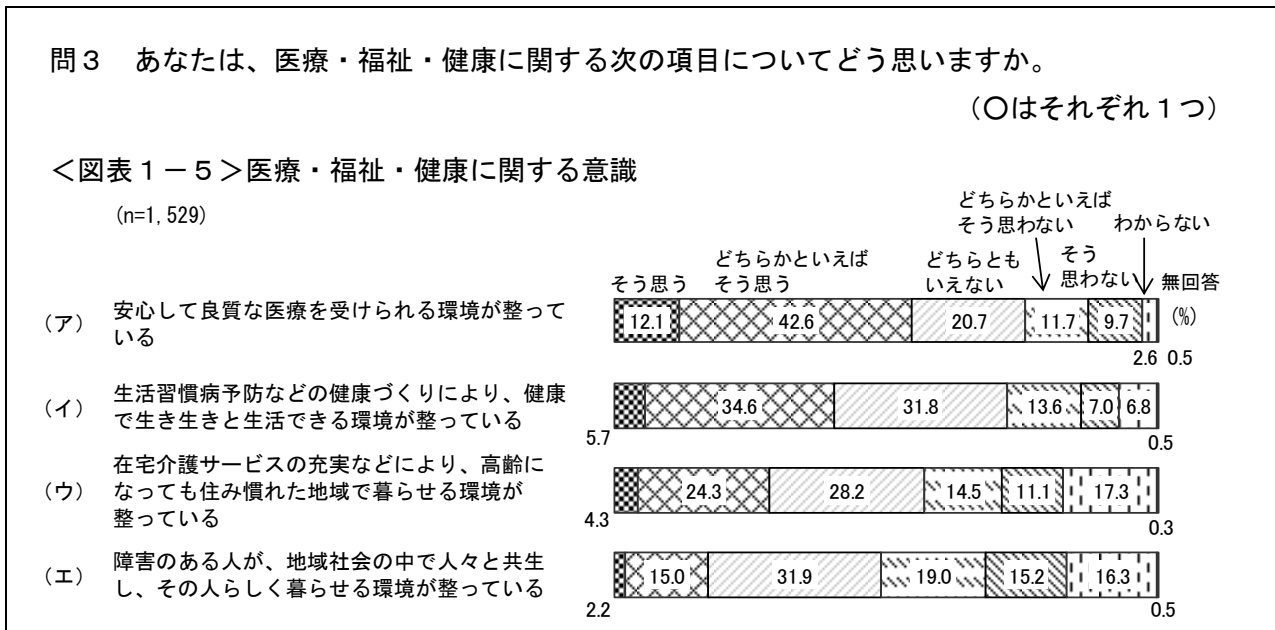
<図表1-4-3>暮らしの安全・安心に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている



### （3）医療・福祉・健康に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈安心して良質な医療を受けられる環境が整っている〉で5割台半ば



医療・福祉・健康に関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」(54.7%)で5割台半ばとなっており、以下、「(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている」(40.3%)が4割、「(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている」(28.6%)が約3割で続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている」(34.2%)が3割台半ばとなっており、以下、「(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている」(25.6%)が2割台半ば、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」(21.5%)が2割を超えて続く。

(図表1-5)

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“東葛飾地域”(60.5%)が6割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(47.4%)が約5割、“長生地域”(35.9%)が3割台半ばで高くなっている。

「(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている」の『そう思わない(計)』は“海匝地域”(36.8%)が3割台半ば、“長生地域”(33.3%)が3割を超えて高くなっている。

「(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている」の『そう思わない(計)』は“海匝地域”(52.6%)が5割を超え、“山武地域”(40.0%)が4割で高くなっている。

「(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“葛南地域”(20.7%)が2割で高くなっている。(図表1-6)

### 【性・年代別】

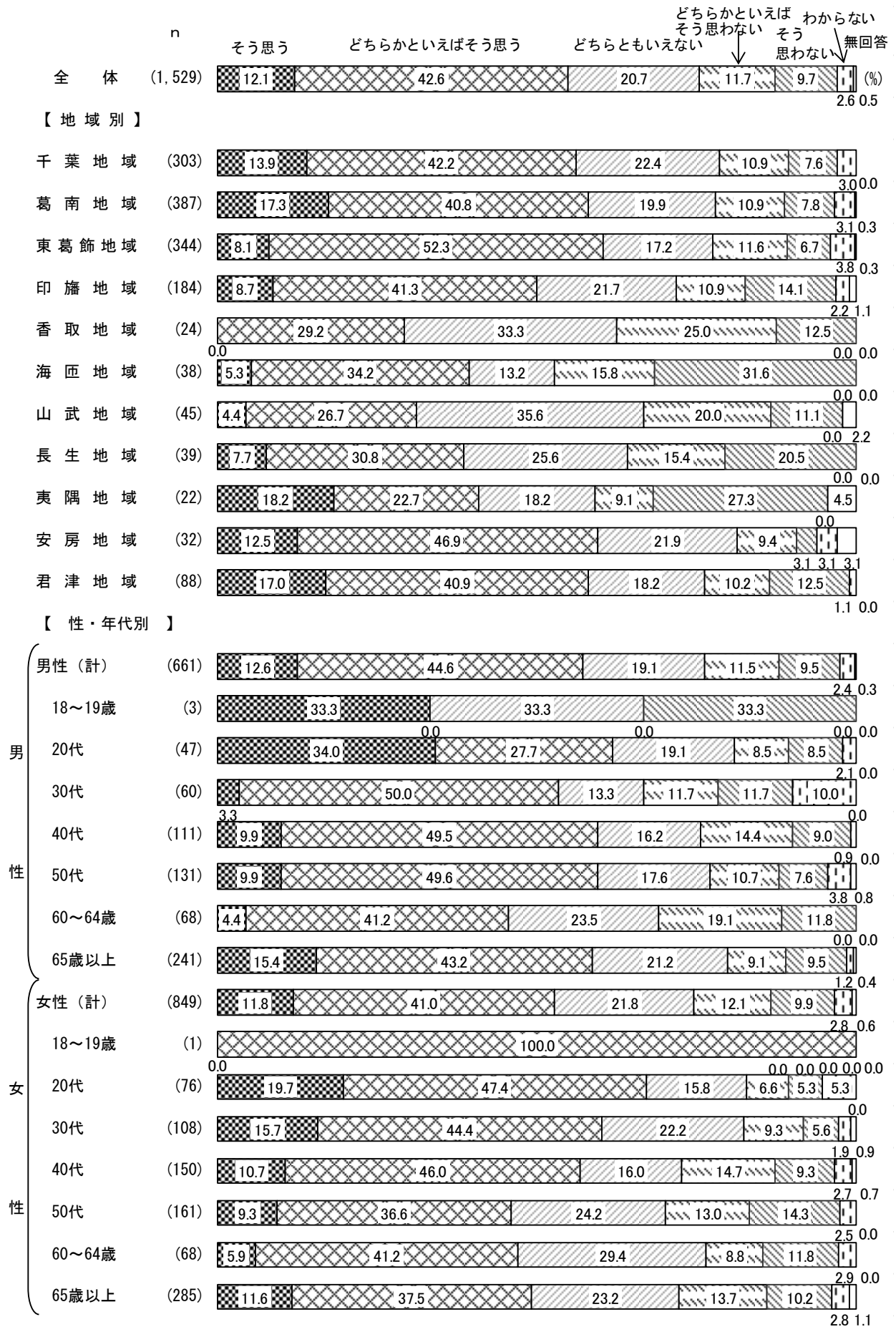
性・年代別にみると、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」の『そう思う(計)』は女性の20代(67.1%)が約7割で高くなっている。

「(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている」の『そう思わない(計)』は男性の60~64歳(38.2%)が約4割で高くなっている。

「(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている」の『そう思う(計)』は男性の20代(31.9%)が3割を超え、女性の20代(28.9%)が約3割で高くなっている。

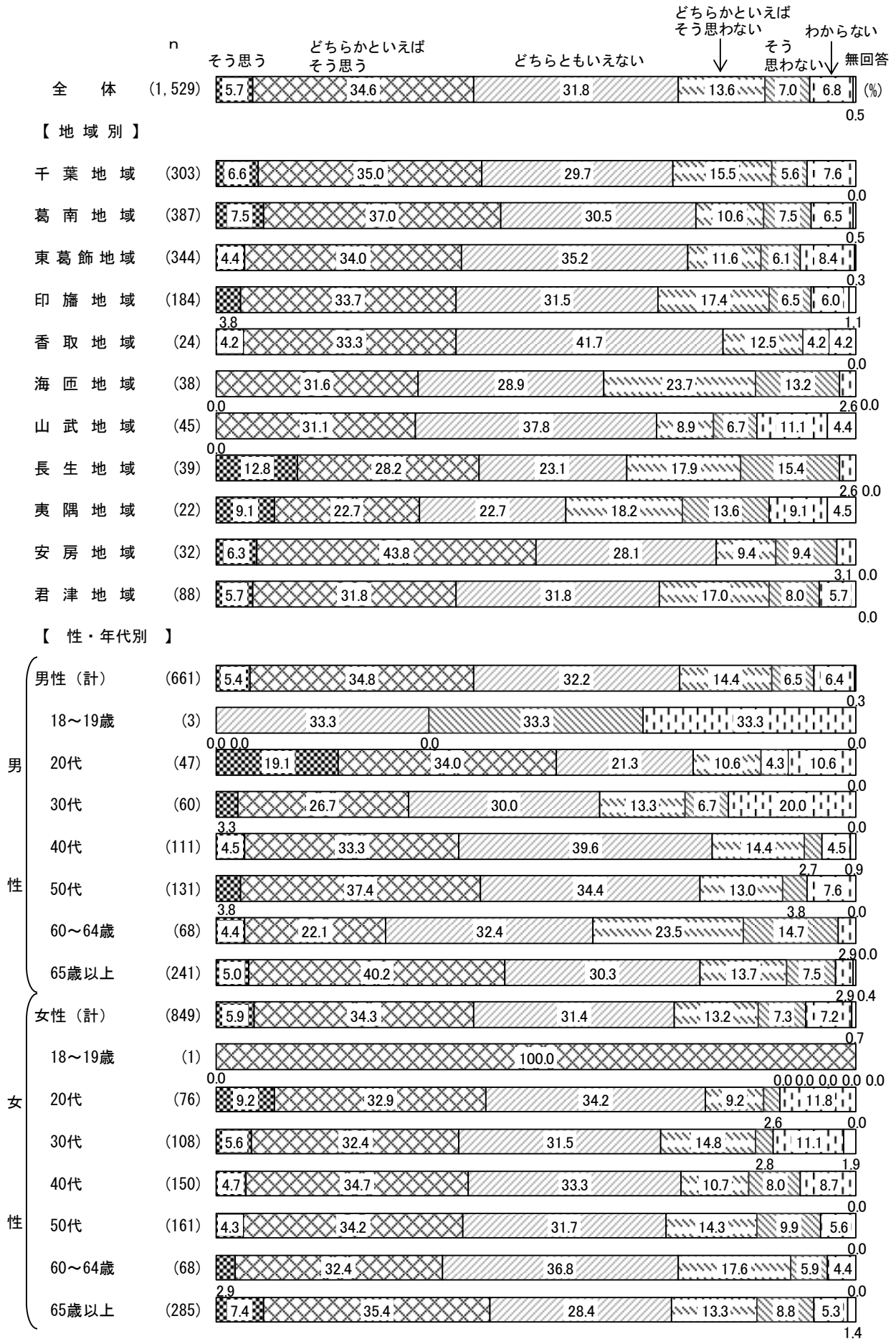
一方、『そう思わない(計)』は男性の60~64歳(52.9%)が5割を超え、女性の50代(41.6%)が4割を超えて高くなっている。(図表1-6)

<図表1-6-1>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別  
 (ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている



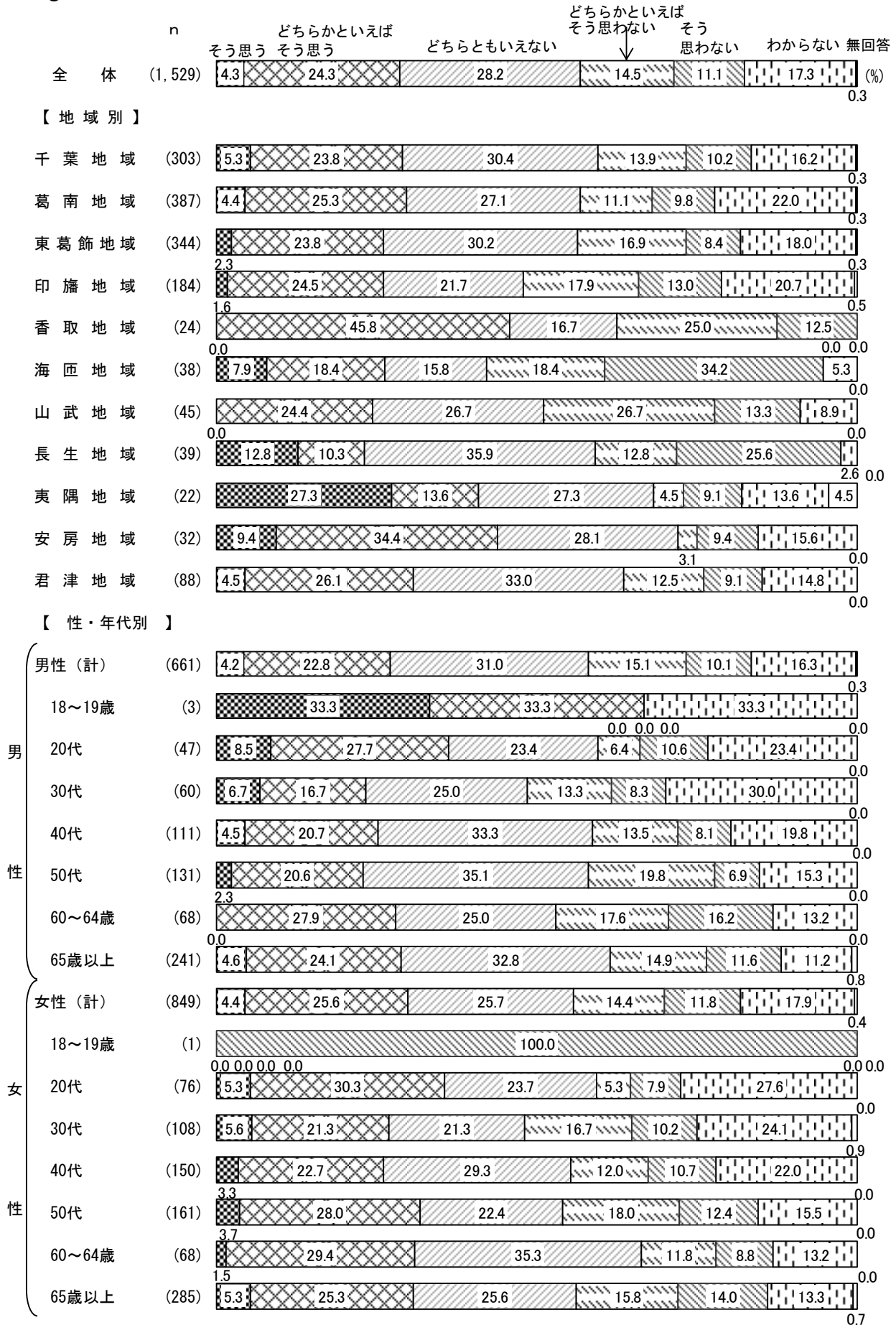
<図表1-6-2>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている



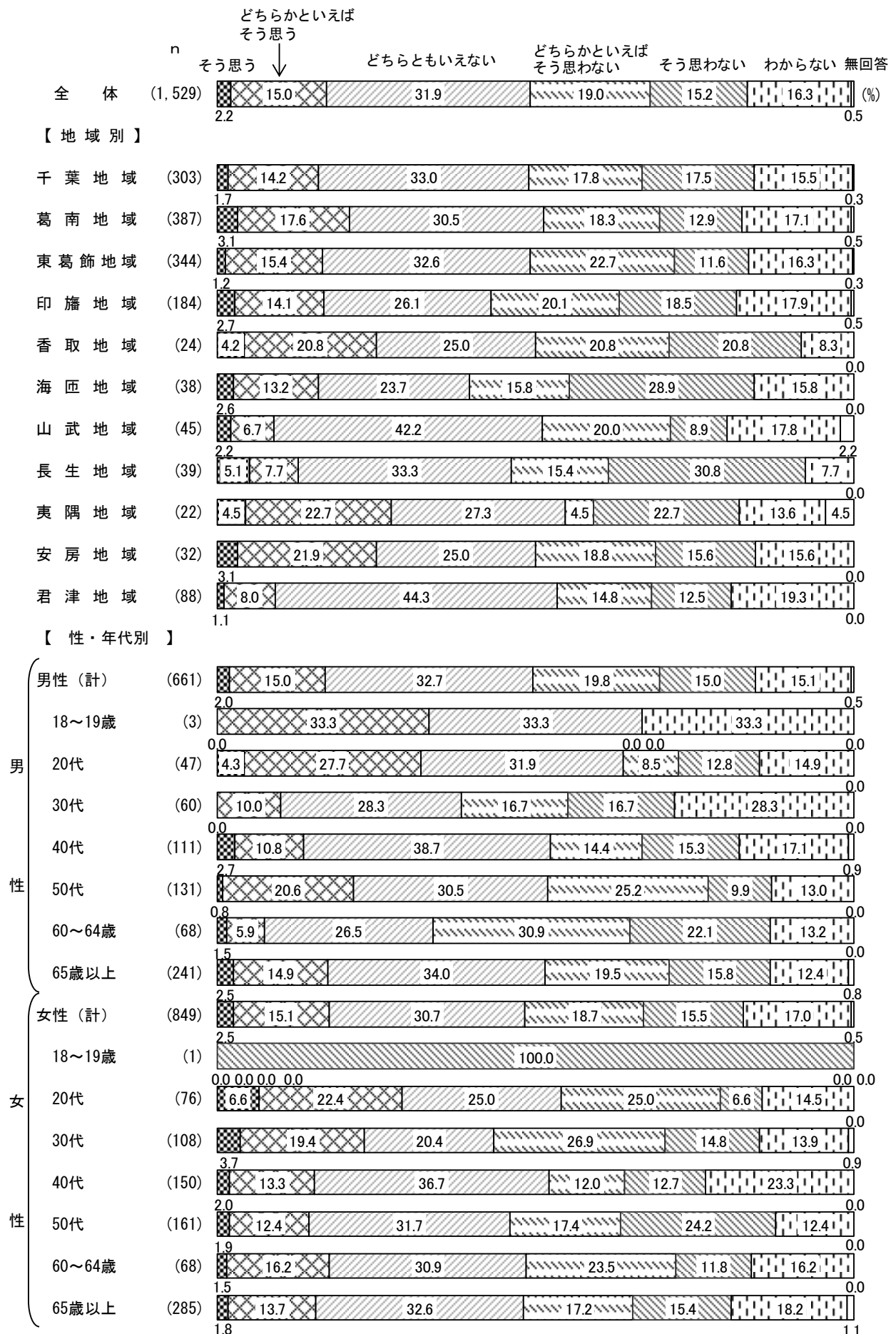
<図表1-6-3>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている



<図表1-6-4>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

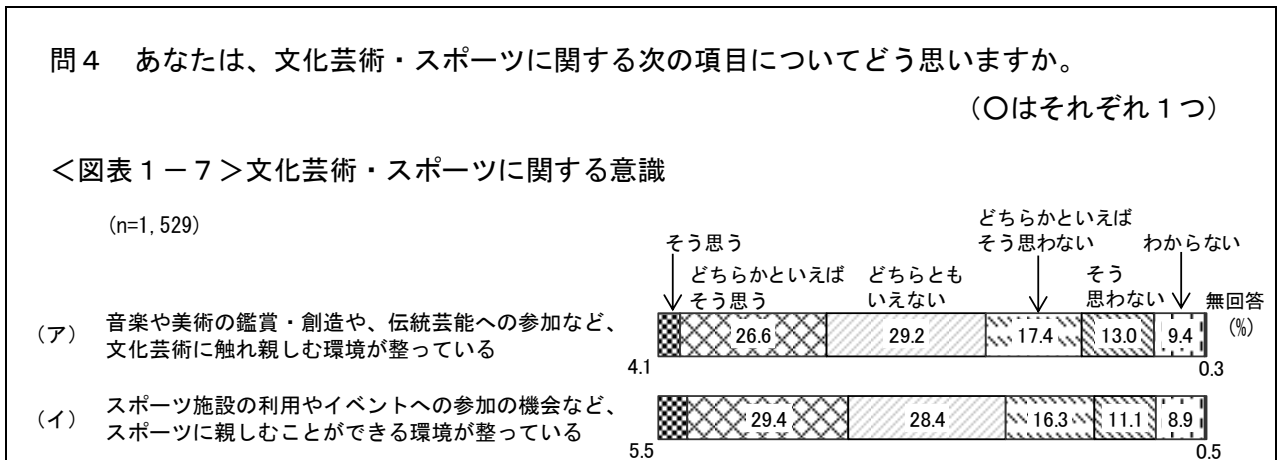
(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている





#### （４）文化芸術・スポーツに関する意識

◇『そう思う（計）』が高いのは、〈「スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」で3割台半ば



文化芸術・スポーツに関する2個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が高いのは、「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」(34.9%)で3割台半ばとなっており、次いで「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」(30.7%)が3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」(30.4%)が3割となっており、次いで「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」(27.3%)が約3割となっている。(図表1-7)

#### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」の『そう思う（計）』は“千葉地域”(35.6%)、“葛南地域”(35.1%)が3割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”(55.3%)が5割台半ば、“安房地域”(46.9%)が4割台半ばで高くなっている。

「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”(47.4%)が約5割、“印旛地域”(33.7%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1-8)

#### 【性・年代別】

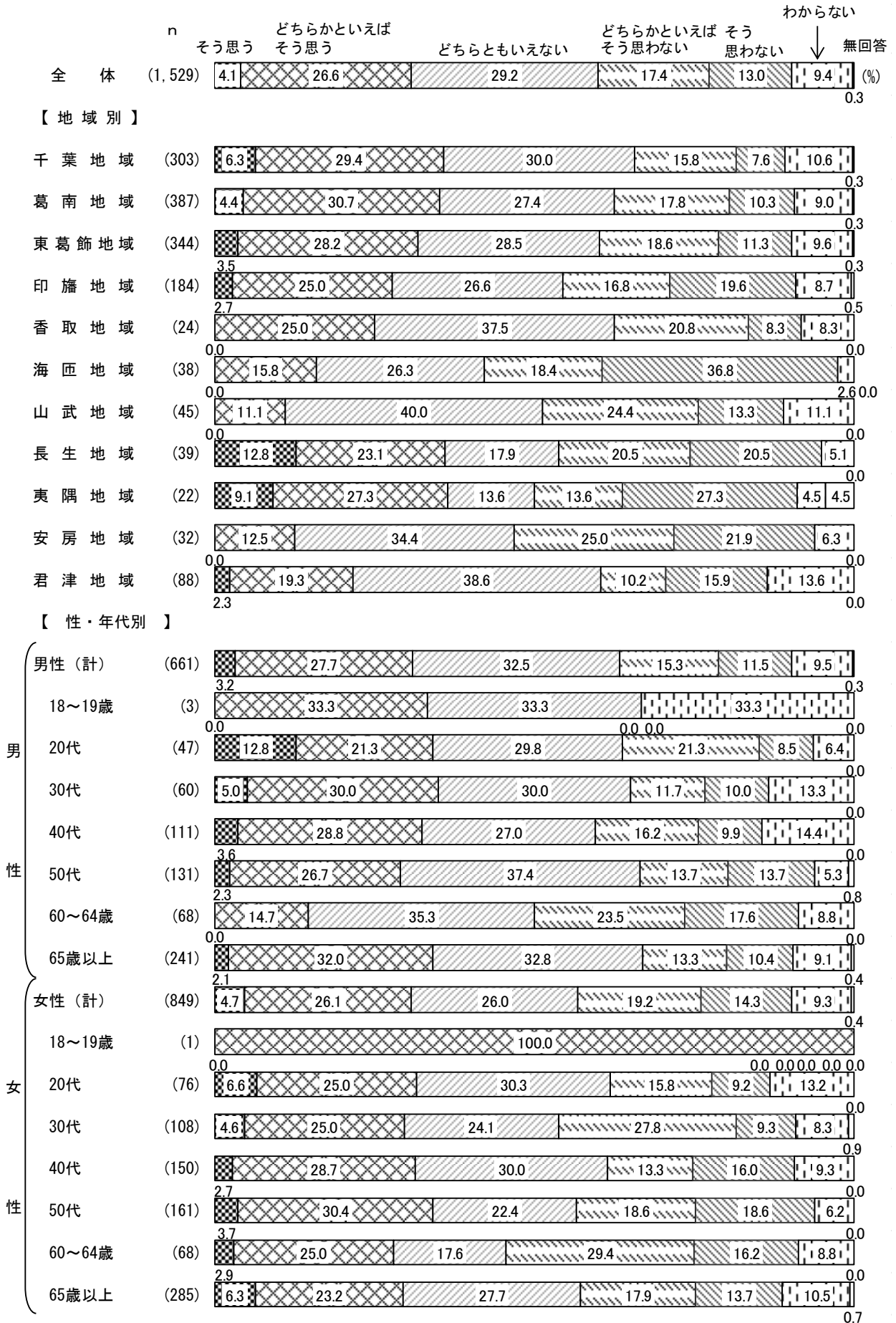
性・年代別にみると、「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」の『そう思わない（計）』は女性の60～64歳(45.6%)が4割台半ば、男性の60～64歳(41.2%)が4割を超え、女性の50代(37.3%)が約4割で高くなっている。

「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の40代(45.0%)が4割台半ばで高くなっている。

(図表1-8)

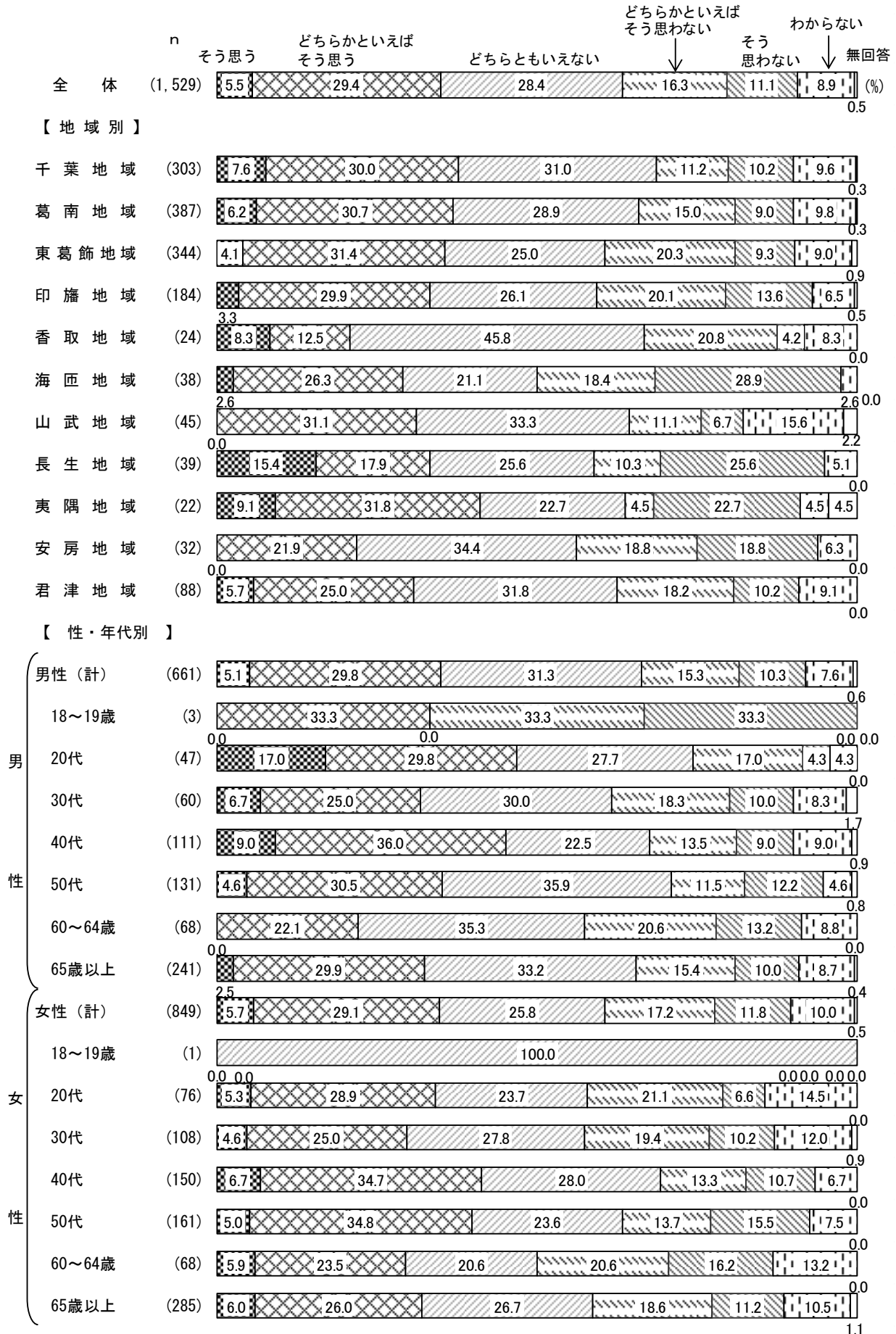
<図表1-8-1>文化芸術・スポーツに関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている



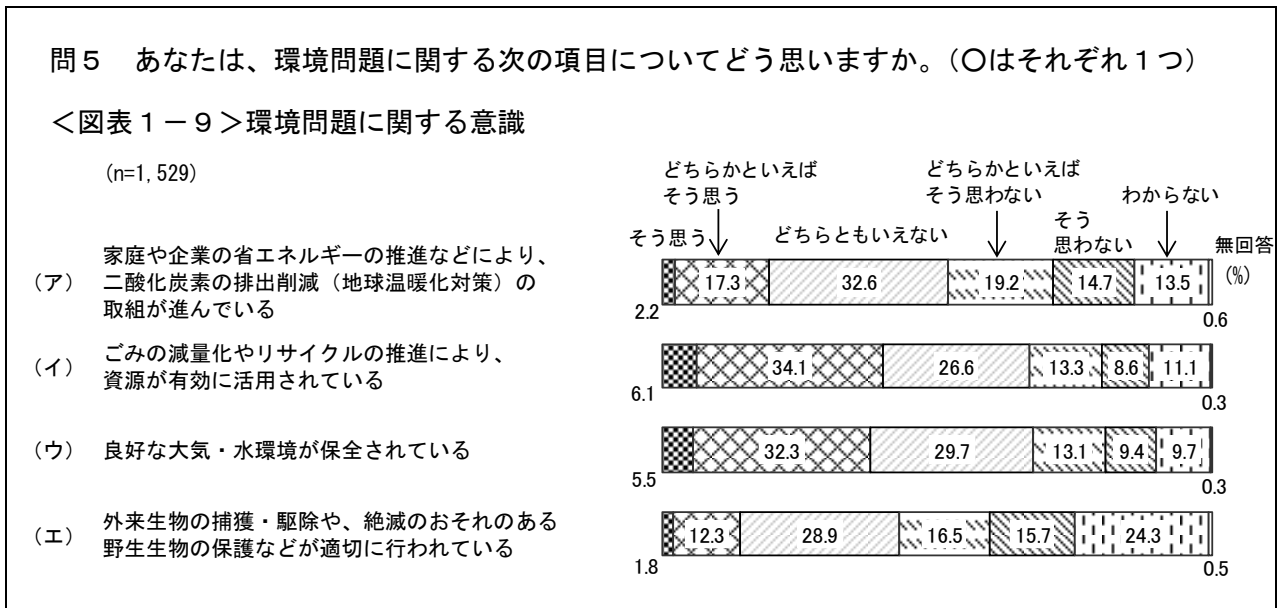
<図表1-8-2>文化芸術・スポーツに関する意識／地域別、性・年代別

(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている



（5）環境問題に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている〉で4割



環境問題に関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている」(40.2%)で4割となっており、以下、「(ウ) 良好な大気・水環境が保全されている」(37.8%)が約4割、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」(19.4%)が約2割で続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」(33.8%)が3割台半ばとなっており、以下、「(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている」(32.2%)が3割を超え、「(ウ) 良好な大気・水環境が保全されている」(22.4%)が2割を超えて続く。

(図表1-9)

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」の『そう思わない（計）』は“印旛地域”（41.3%）が4割を超えて高くなっている。

「(イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が4割を超え、“山武地域”（35.6%）が3割台半ば、“印旛地域”（27.7%）が約3割で高くなっている。

「(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている」の『そう思う（計）』は“夷隅地域”（31.8%）が3割を超え、“印旛地域”（19.0%）が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“香取地域”（54.2%）が5割台半ば、“長生地域”（51.3%）が5割を超え、“君津地域”（42.0%）が4割を超えて高くなっている。（図表1-10）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（58.8%）が約6割で高くなっている。

「(イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている」の『そう思う（計）』は女性の65歳以上（48.4%）が約5割で高くなっている。

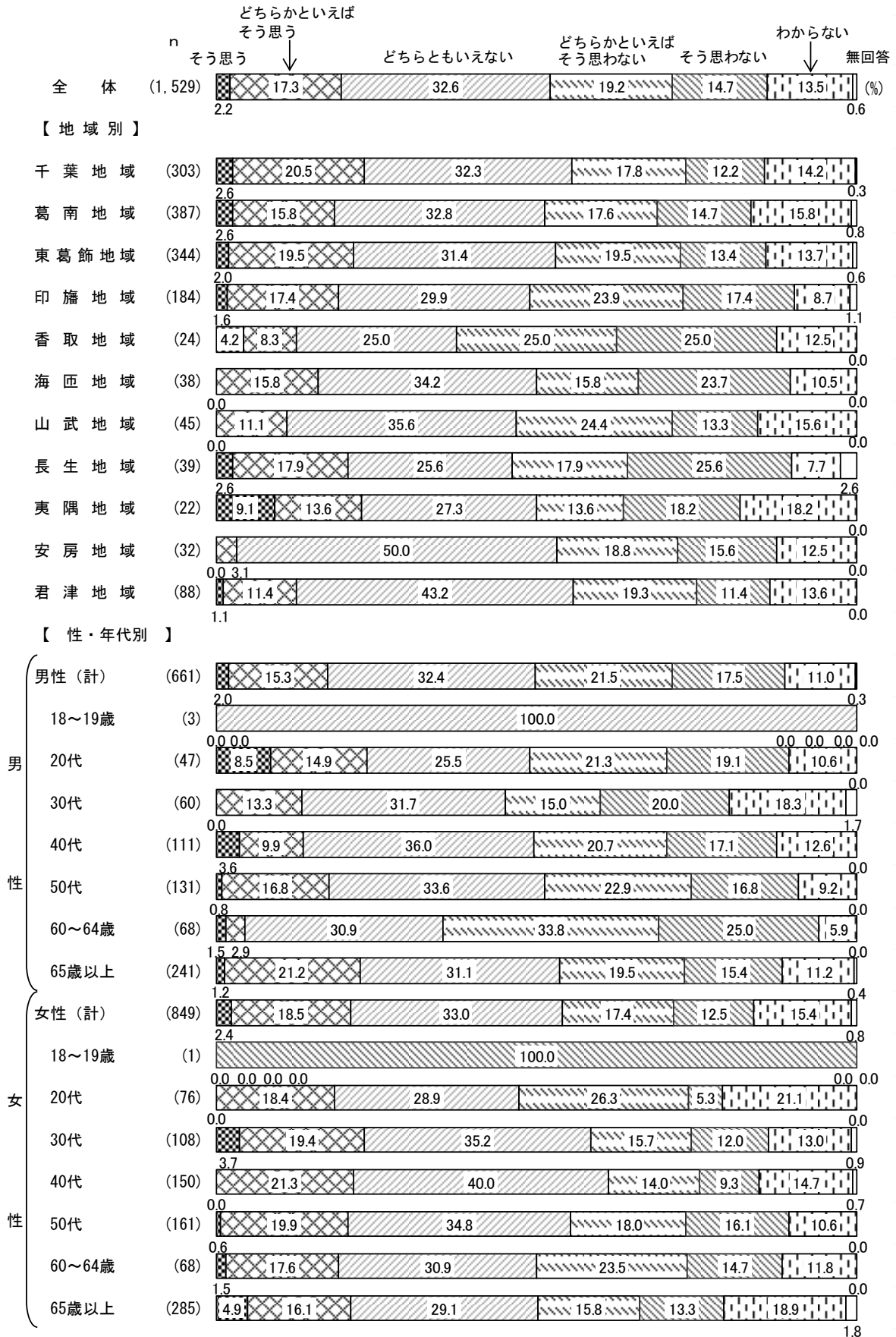
一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 良好な大気・水環境が保全されている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（36.8%）が3割台半ば、女性の30代（30.6%）が3割で高くなっている。

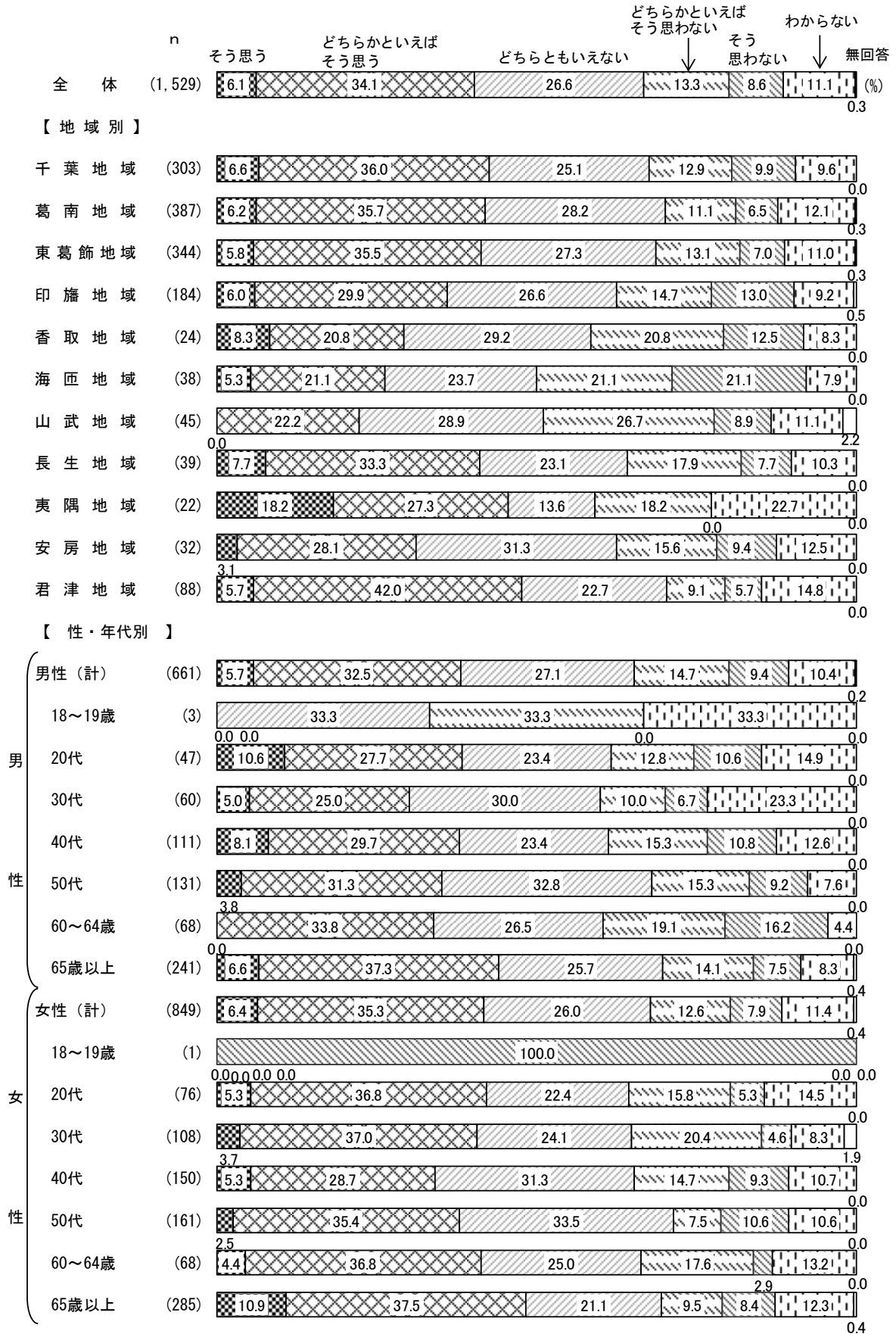
「(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（52.9%）が5割を超え、男性の65歳以上（44.4%）が4割台半ば、男性の50代（40.5%）が4割で高くなっている。（図表1-10）

<図表1-10-1>環境問題に関する意識／地域別、性・年代別

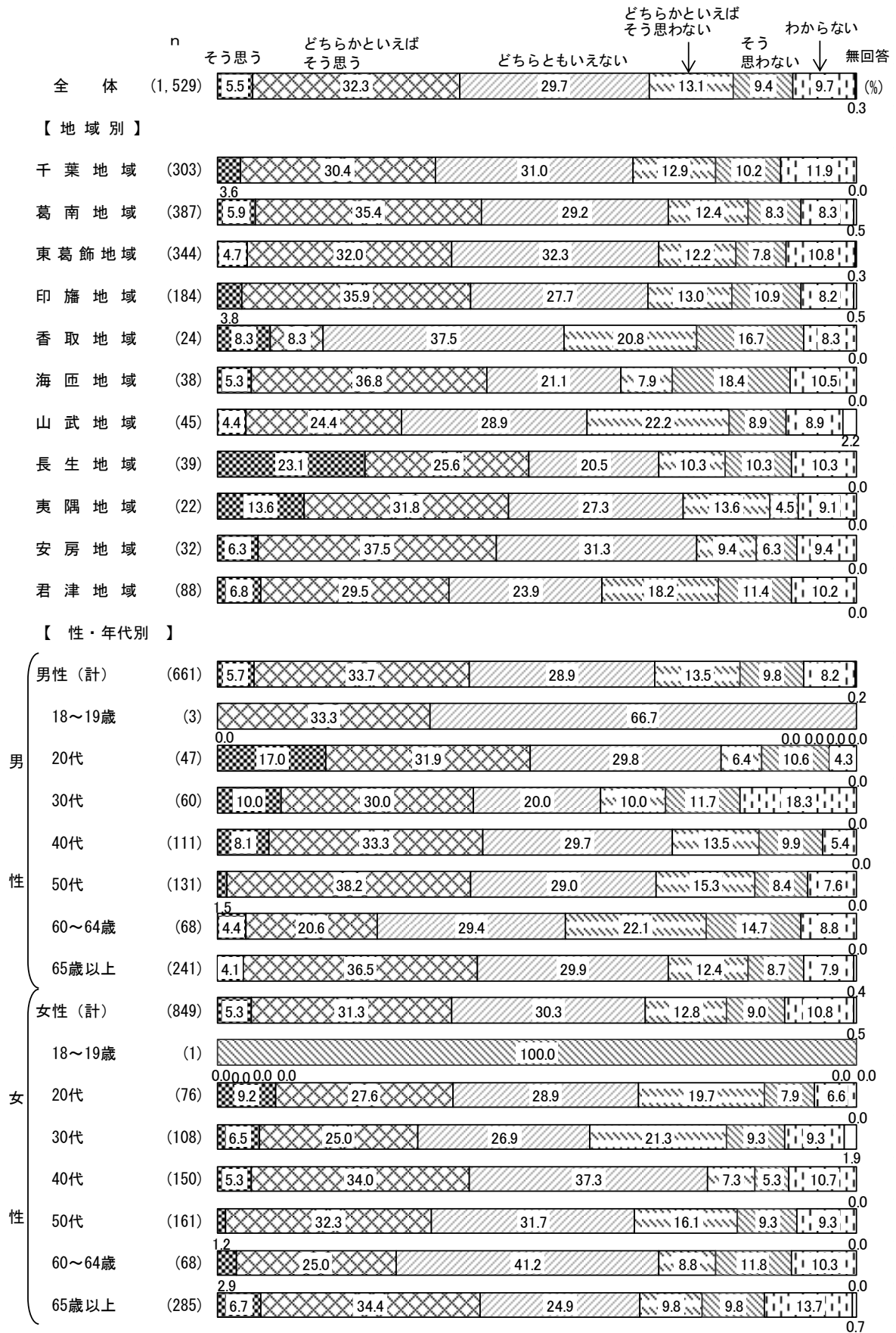
(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる



＜図表1-10-2＞環境問題に関する意識／地域別、性・年代別  
 (イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている



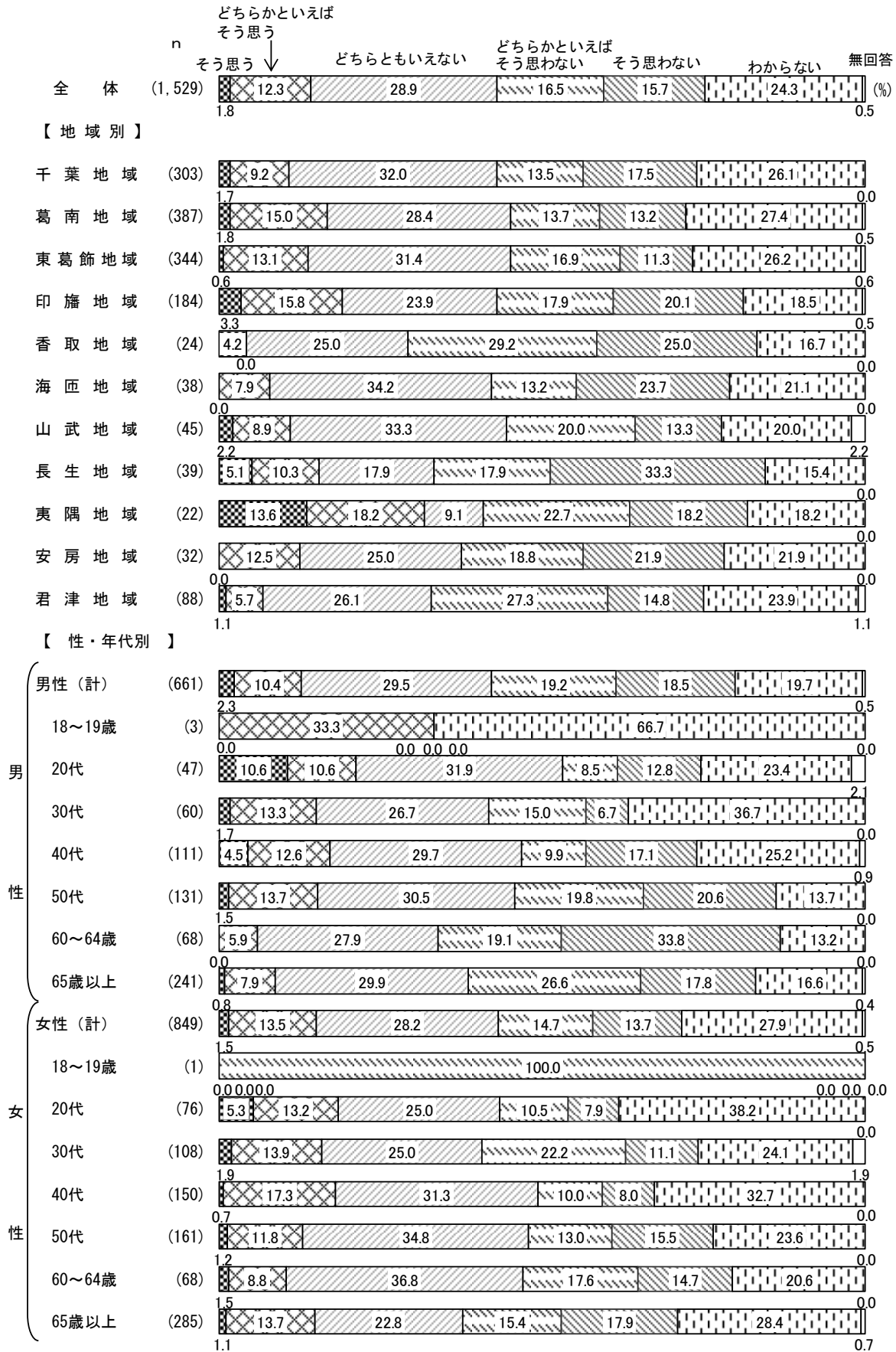
＜図表1-10-3＞環境問題に関する意識／地域別、性・年代別  
 (ウ) 良好な大気・水環境が保全されている





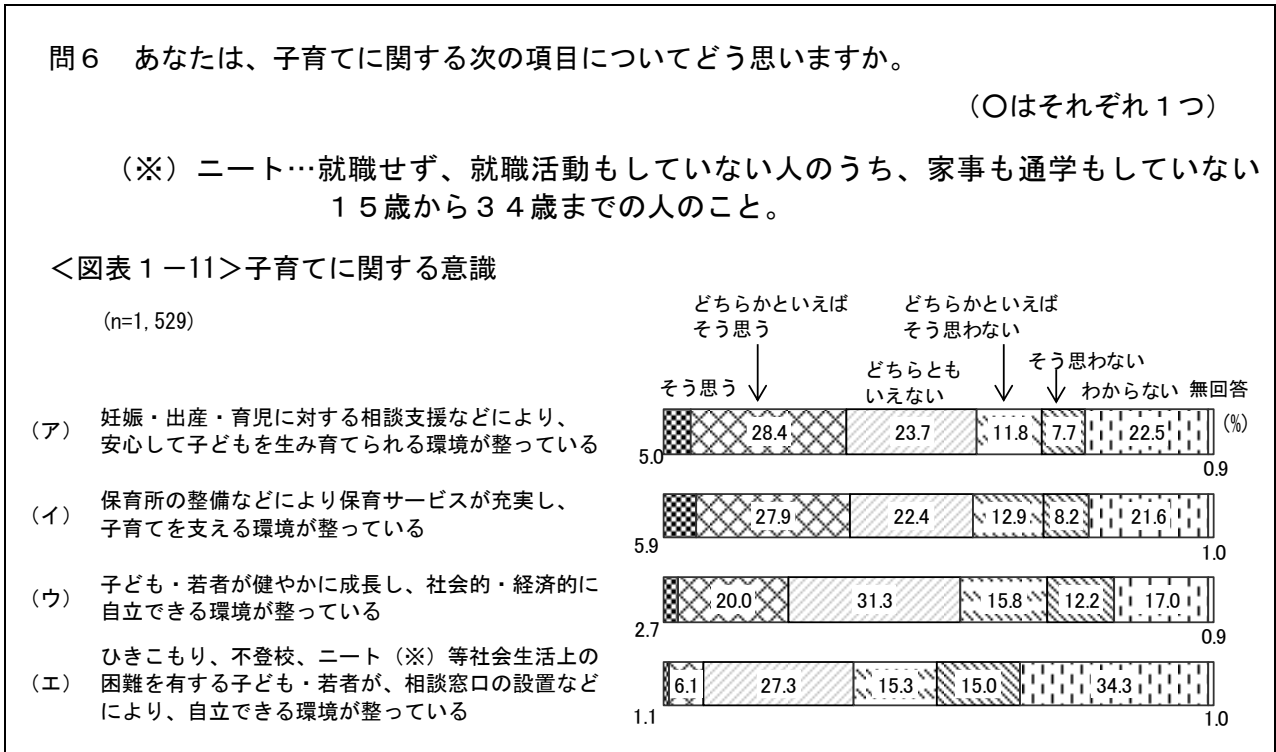
<図表1-10-4>環境問題に関する意識／地域別、性・年代別

(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている



（6）子育てに関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈（イ）保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている〉で3割台半ば



子育てに関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「（イ）保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」（33.7%）で3割台半ばとなっており、以下、「（ア）妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」（33.4%）が3割を超え、「（ウ）子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」（22.8%）が2割を超えて続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「（エ）ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている」（30.3%）が3割となっており、以下、「（ウ）子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」（28.0%）が約3割、「（イ）保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」（21.2%）が2割を超えて続く。（図表1-11）

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを産み育てられる環境が整っている」の『そう思わない(計)』は“香取地域”(37.5%)が約4割、“海匝地域”(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。

「(イ) 保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」の『そう思う(計)』は“長生地域”(48.7%)が約5割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“葛南地域”(27.9%)が約3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(55.3%)が5割台半ば、“長生地域”(43.6%)が4割台半ばで高くなっている。

「(エ) ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“印旛地域”(12.0%)が1割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(50.0%)が5割で高くなっている。(図表1-12)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを産み育てられる環境が整っている」の『そう思う(計)』は女性の30代(44.4%)と女性の40代(44.7%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の20代(28.9%)が約3割で高くなっている。

「(イ) 保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」の『そう思わない(計)』は女性の20代(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は男性の20代(44.7%)が4割台半ば、女性の40代(30.7%)が3割で高くなっている。

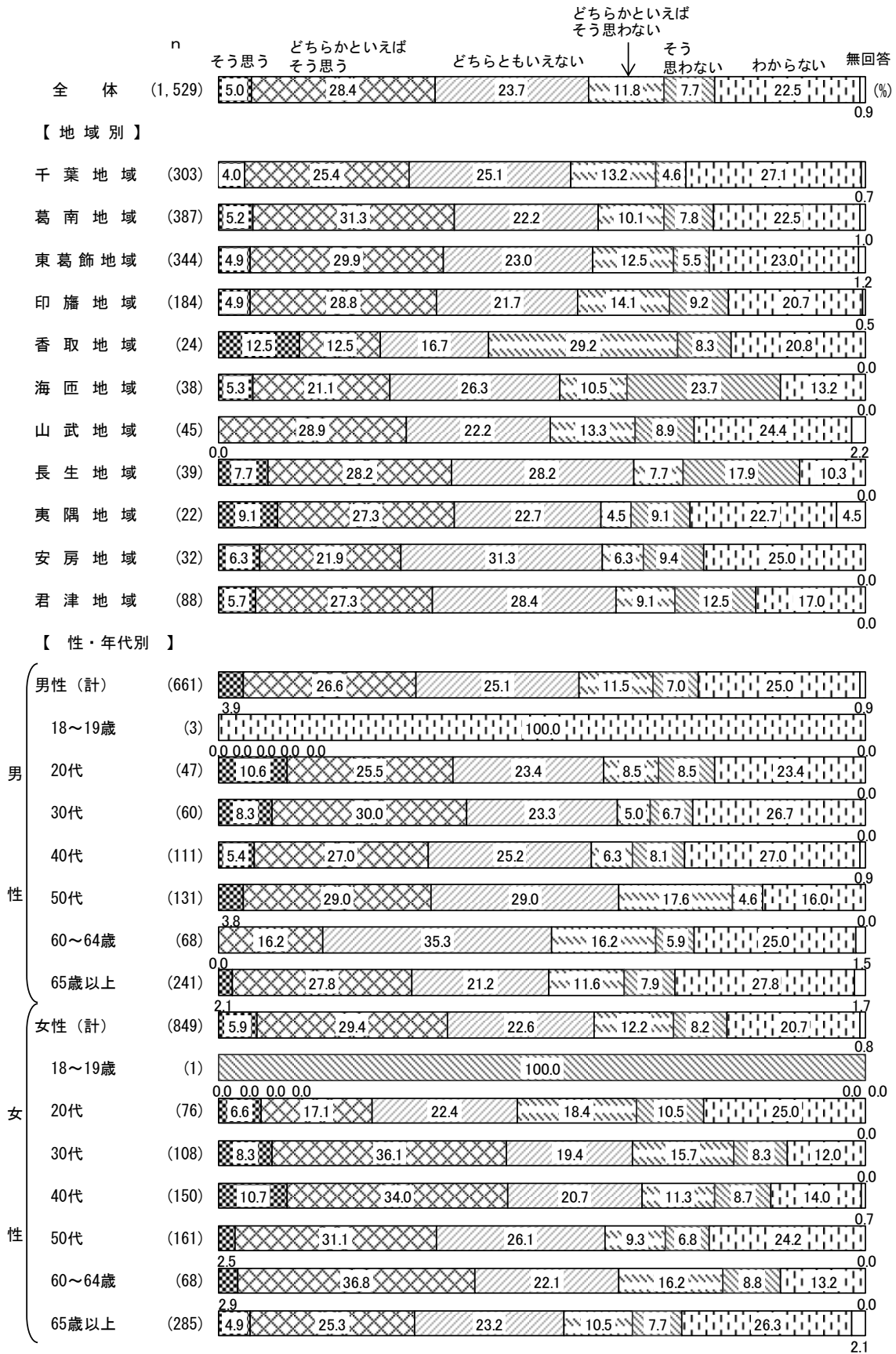
一方、『そう思わない(計)』は女性の60～64歳(39.7%)が約4割で高くなっている。

「(エ) ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は男性の20代(14.9%)が1割台半ば、女性の30代(13.0%)が1割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の60～64歳(45.6%)が4割台半ば、男性の60～64歳(41.2%)が4割を超え、男性の65歳以上(36.5%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1-12)

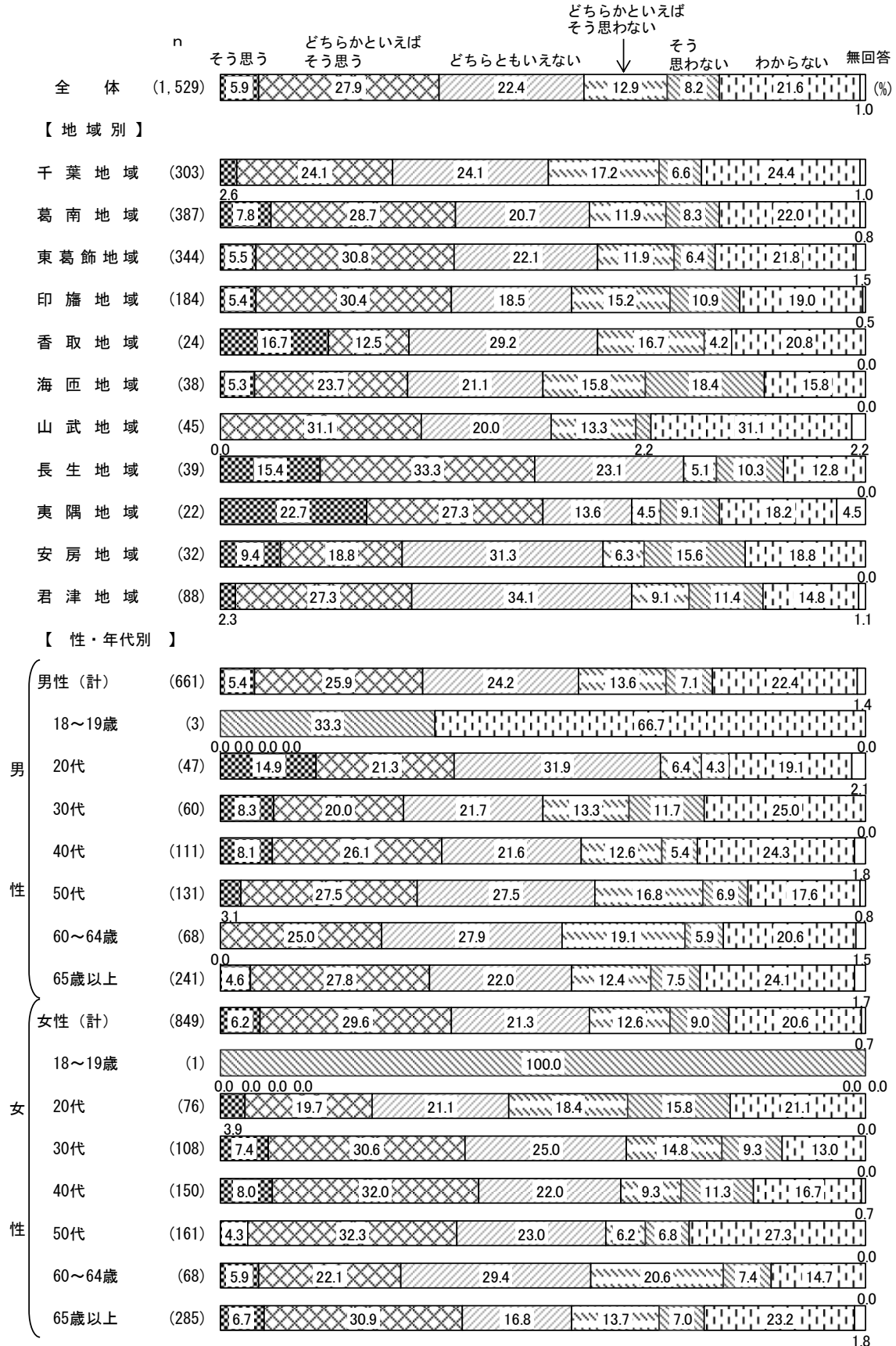
<図表1-12-1>子育てに関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生育てられる環境が整っている



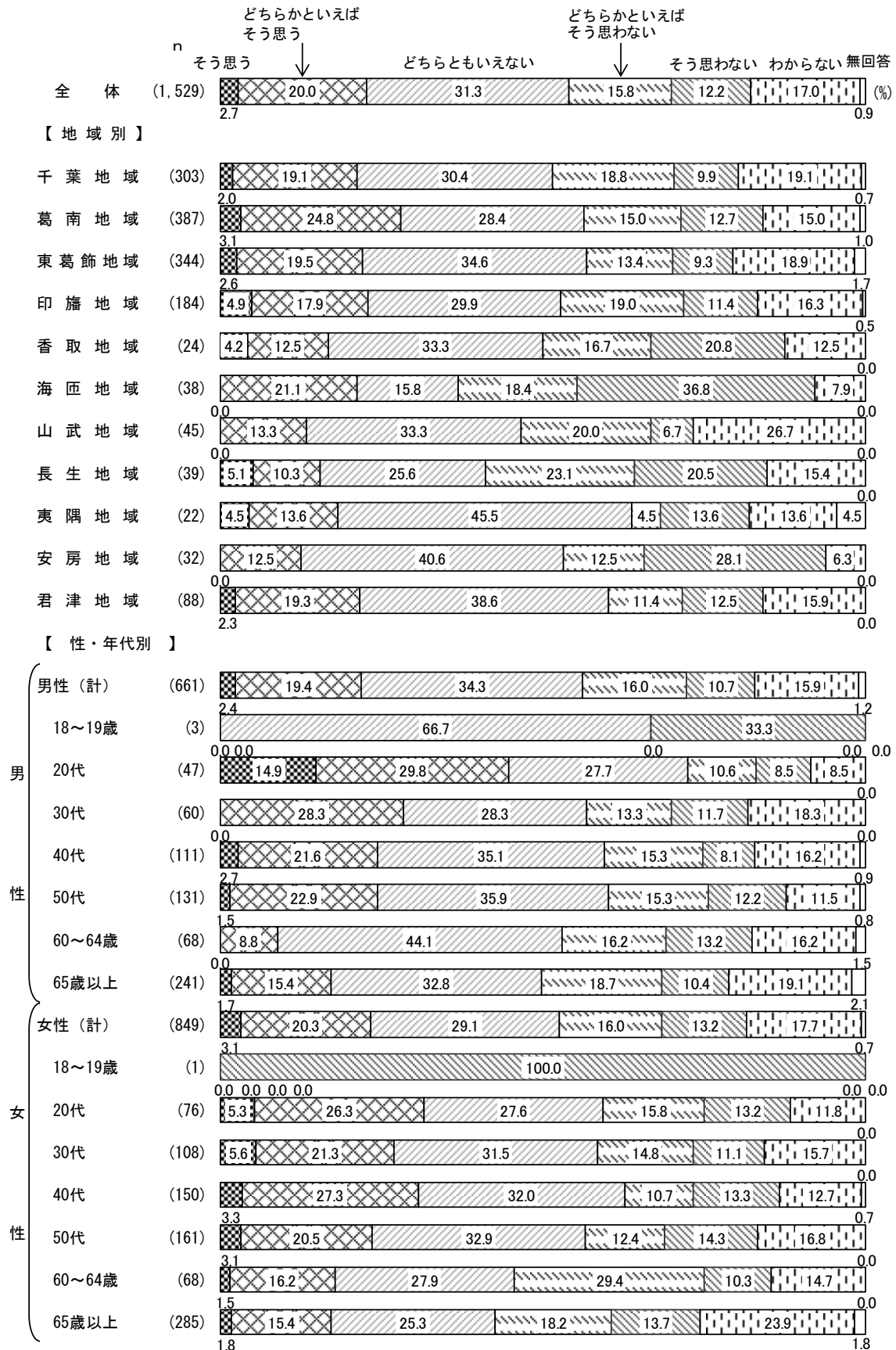
<図表1-12-2>子育てに関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている



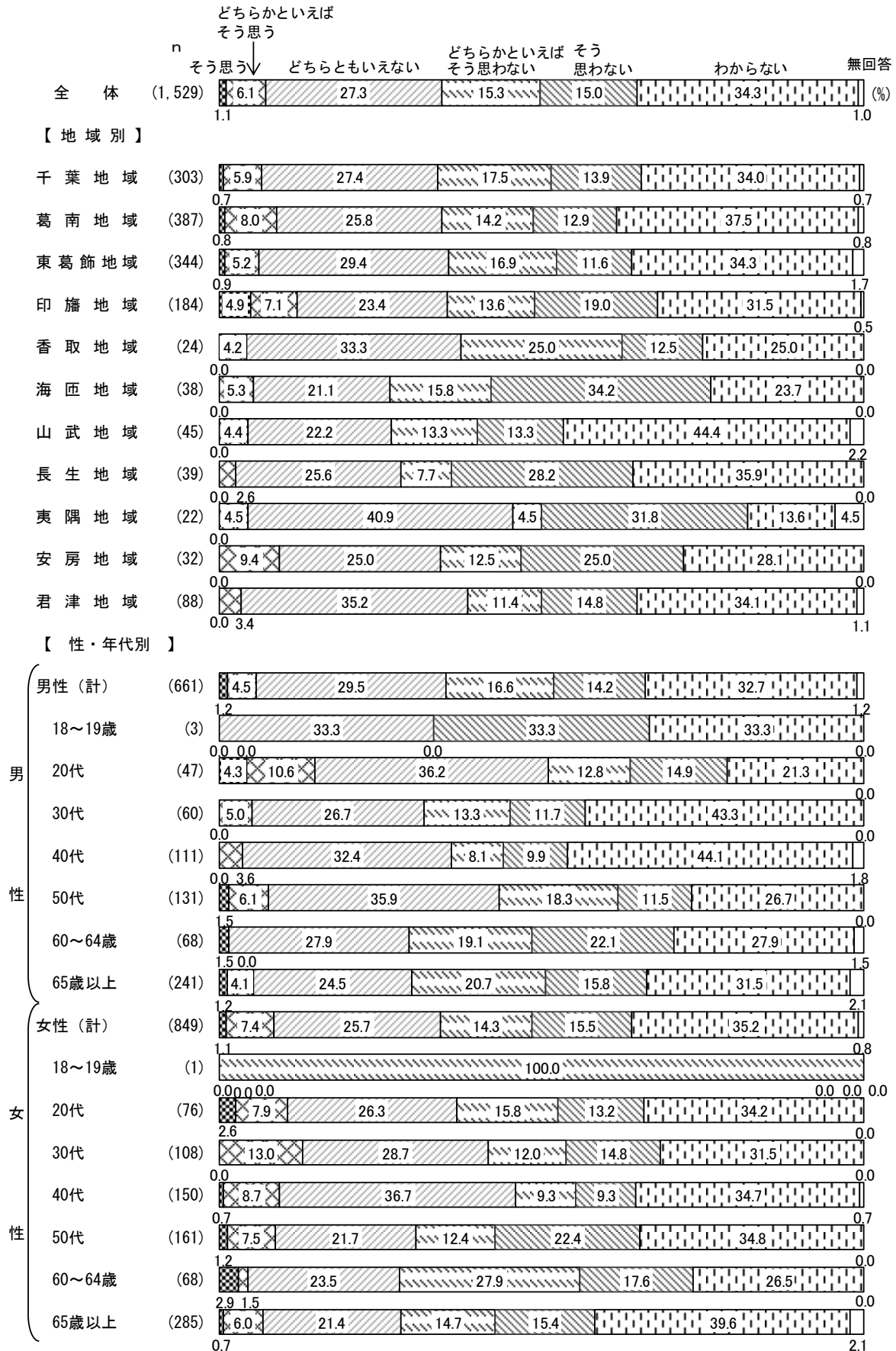
<図表1-12-3>子育てに関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている



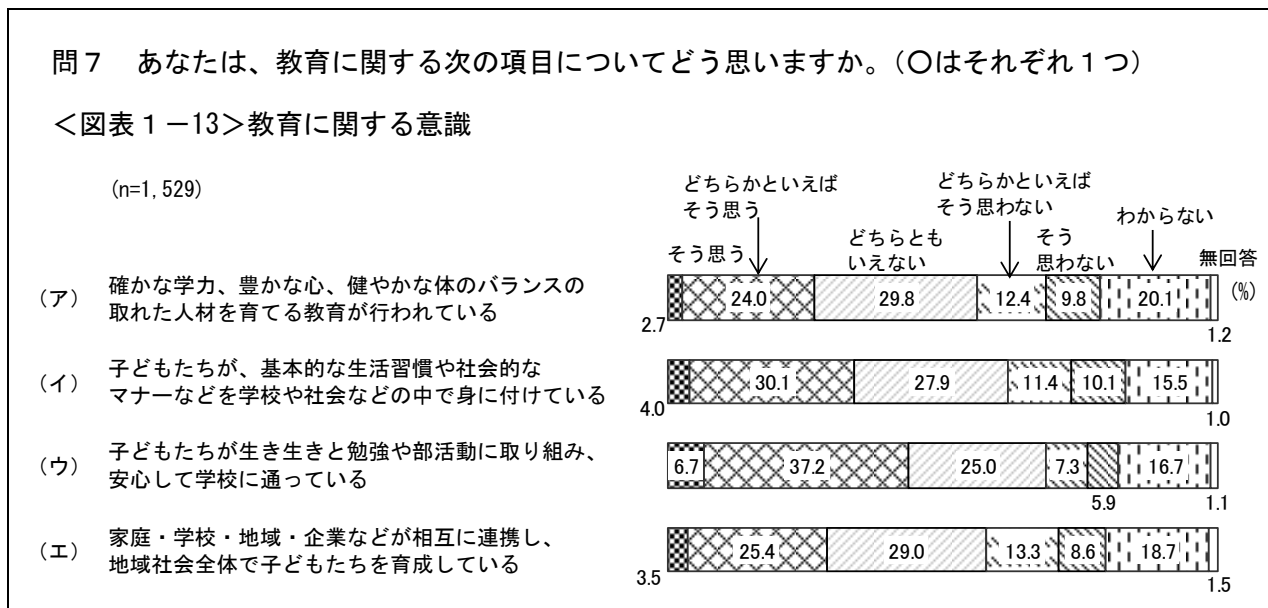
<図表1-12-4>子育てに関する意識／地域別、性・年代別

(エ) ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている



## （7）教育に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている〉で4割台半ば



教育に関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ウ) 子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている」(44.0%)で4割台半ばとなっており、以下、「(イ) 子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」(34.1%)が3割台半ば、「(エ) 家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している」(28.8%)が約3割で続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(ア) 確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている」(22.2%)、「(エ) 家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している」(21.9%)、「(イ) 子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」(21.5%)が2割を超えている。(図表1-13)



**【地域別】**

地域別にみると、「（ア）確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている」の『そう思わない（計）』は“安房地域”（37.5%）が約4割、“印旛地域”（29.9%）が約3割で高くなっている。

「（イ）子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」の『そう思わない（計）』は“千葉地域”（26.1%）が2割台半ばで高くなっている。

（図表1-14）

**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「（ア）確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている」の『そう思わない（計）』は女性の60～64歳（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

「（イ）子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」の『そう思う（計）』は女性の30代（48.1%）が約5割、女性の40代（44.7%）が4割台半ばで高くなっている。

「（ウ）子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている」の『そう思う（計）』は女性の30代（54.6%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は女性の60～64歳（22.1%）が2割を超えて高くなっている。

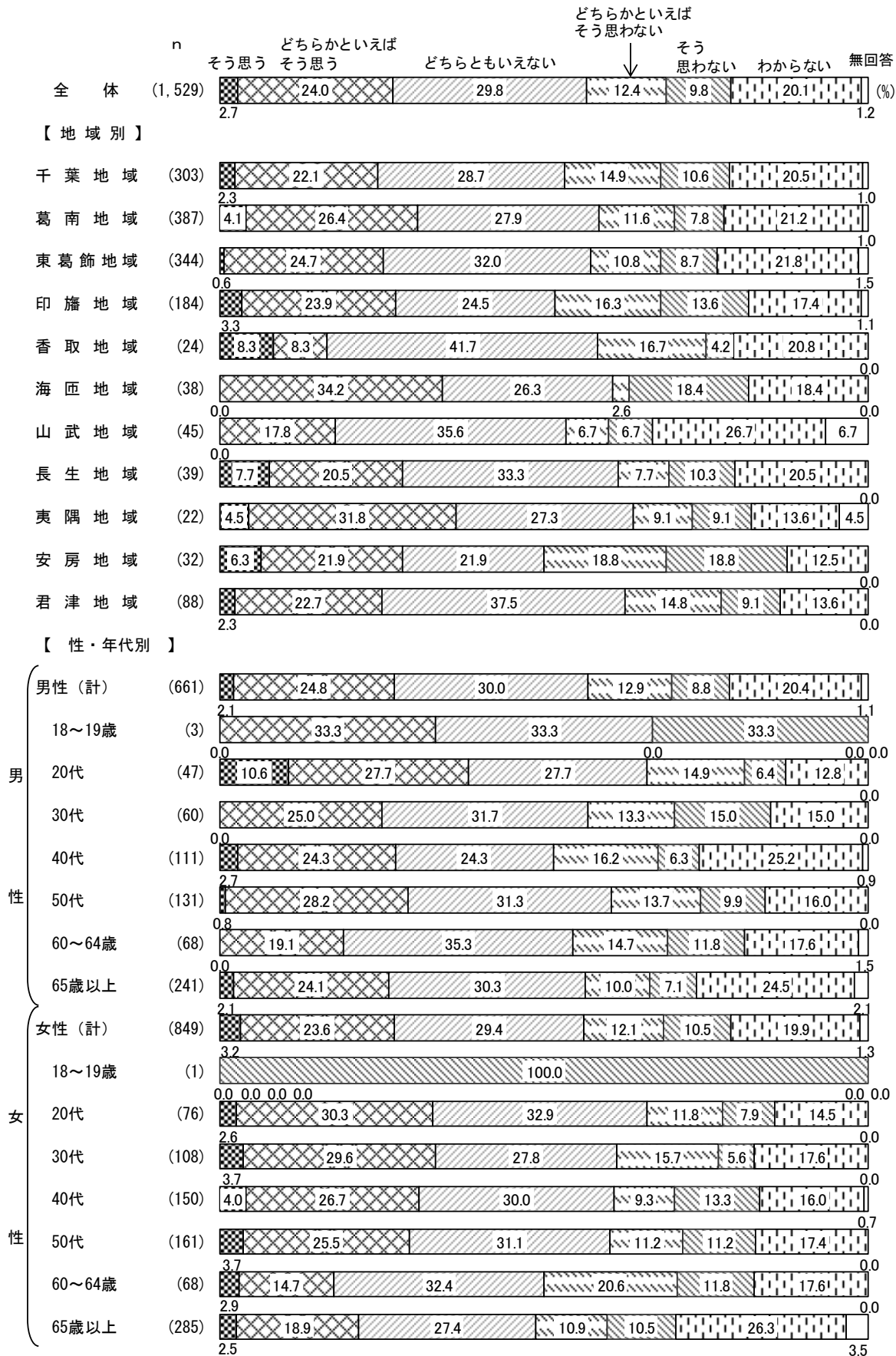
「（エ）家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している」の『そう思う（計）』は女性の20代（39.5%）が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表1-14）

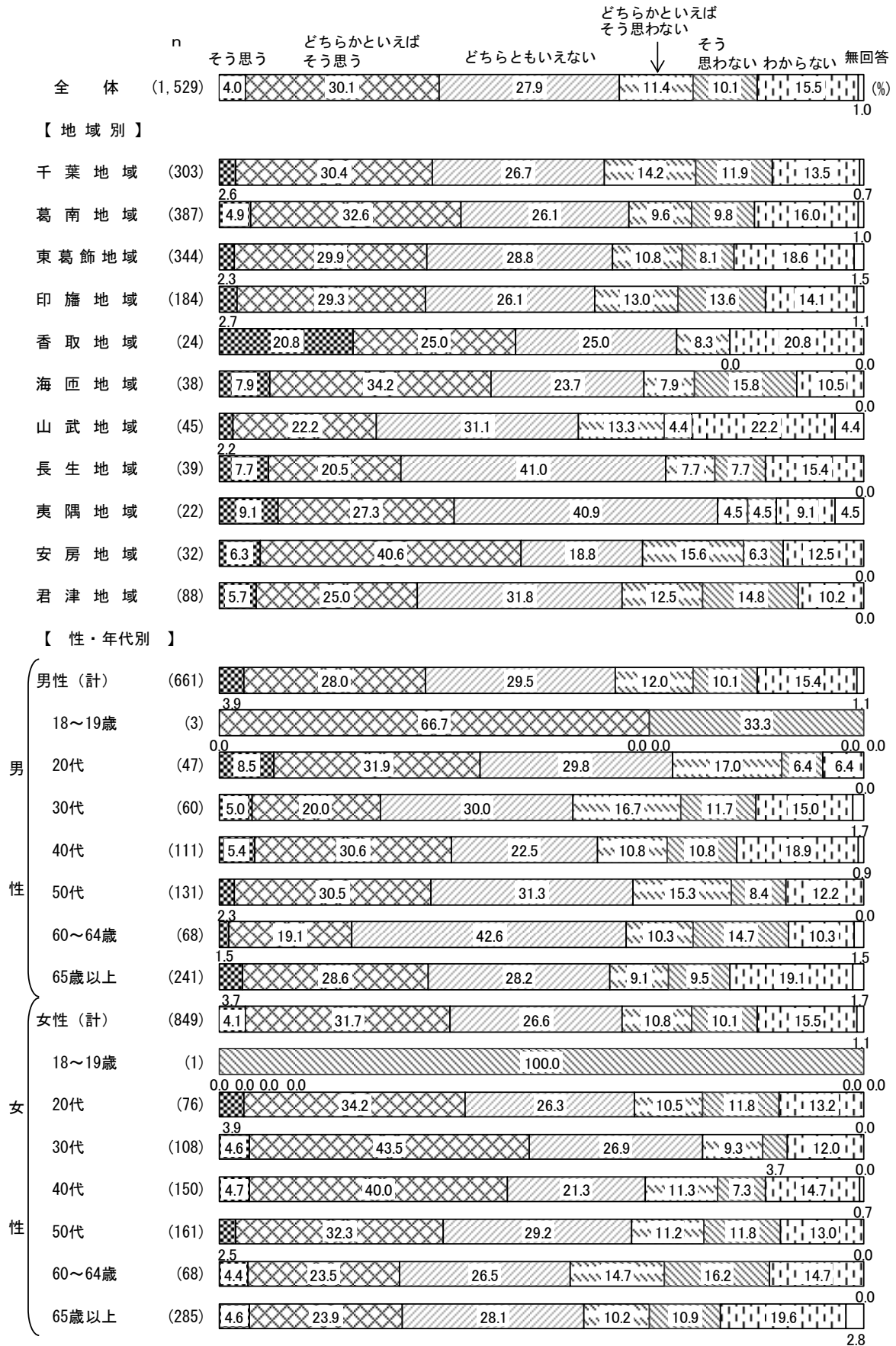
<図表1-14-1>教育に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている



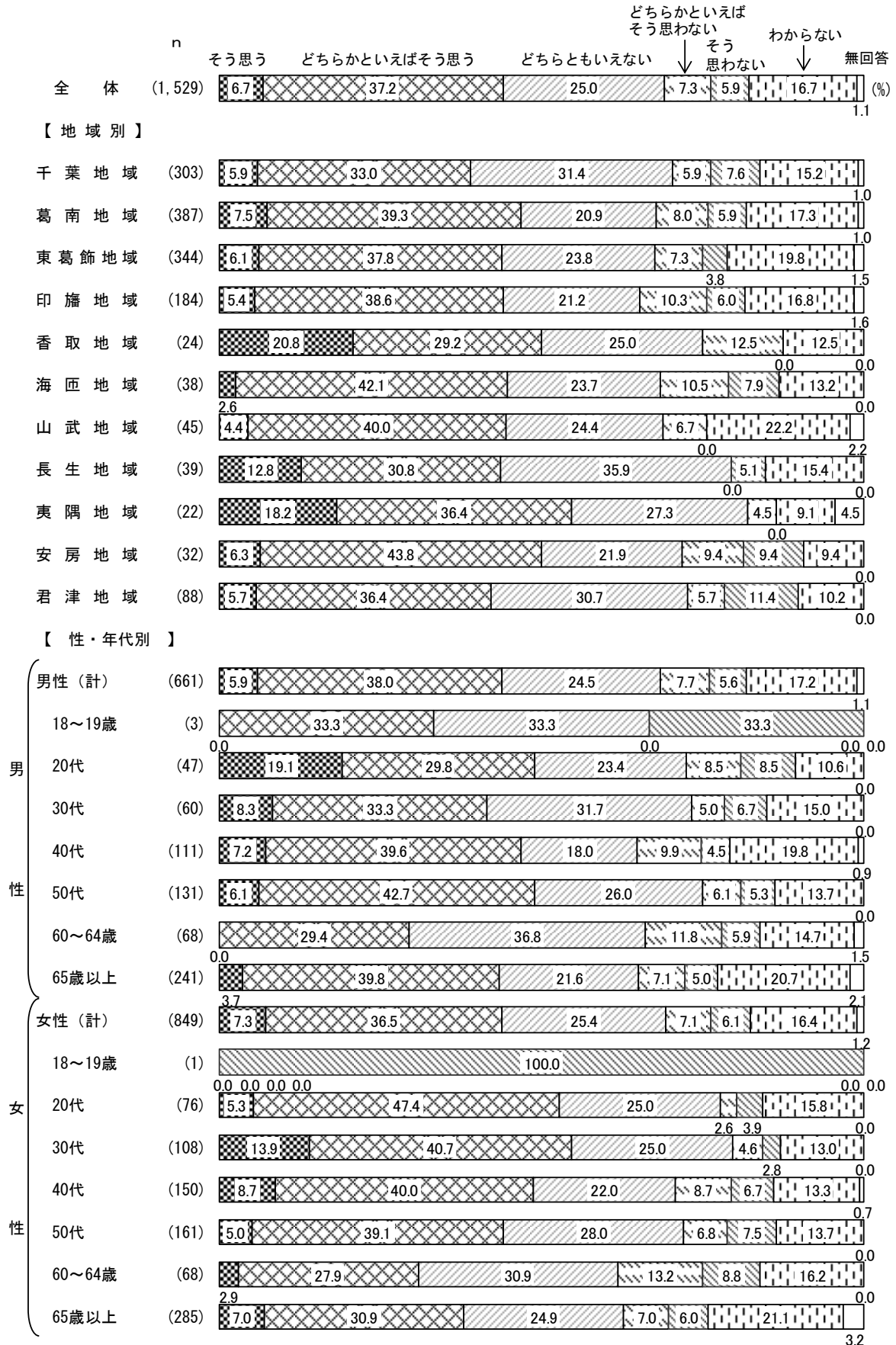
<図表1-14-2>教育に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている



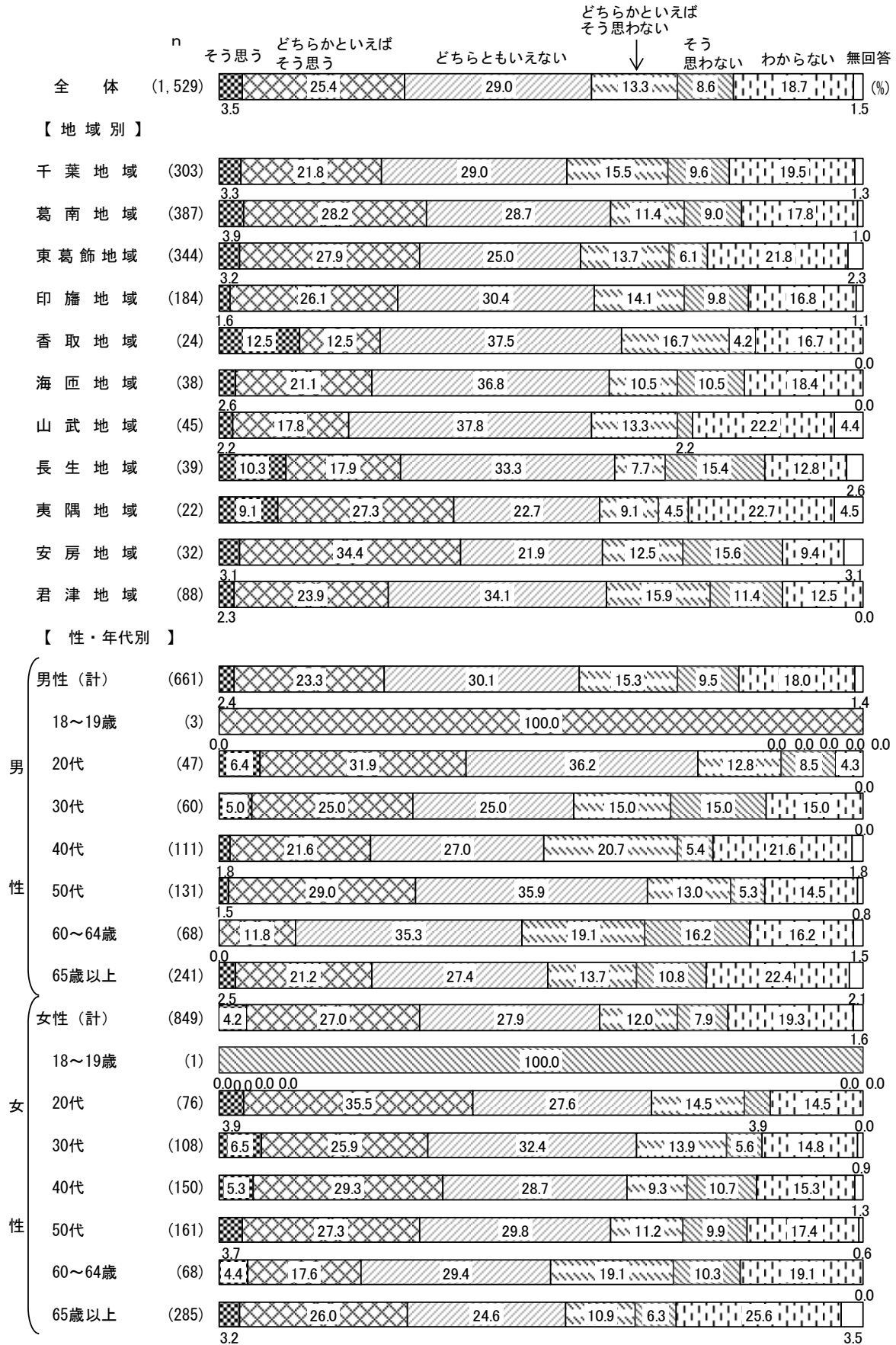
<図表1-14-3>教育に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている



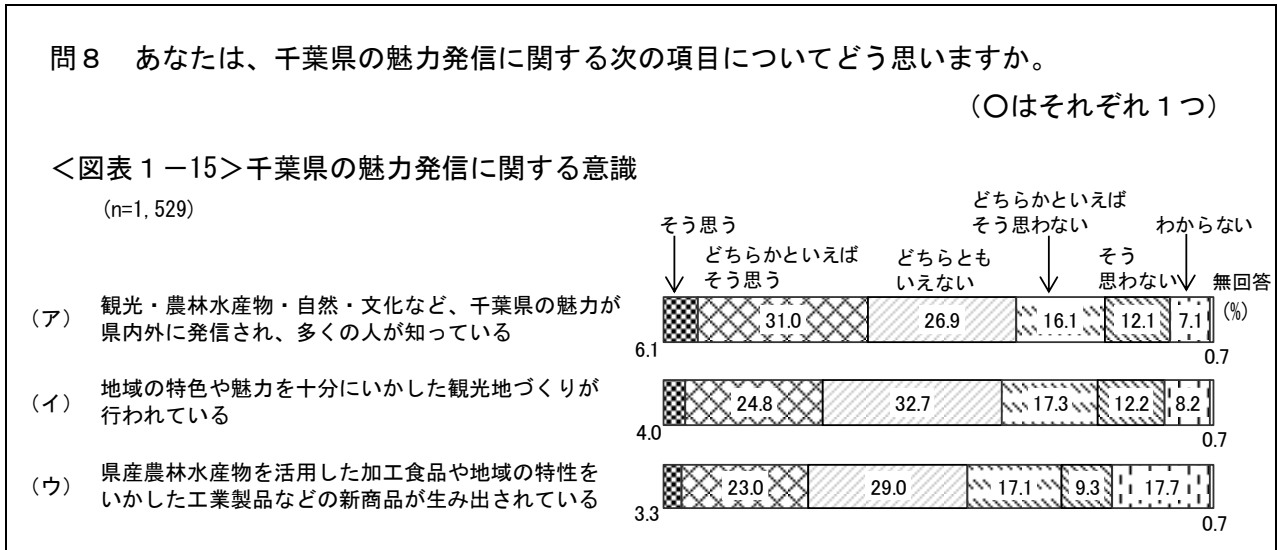
<図表1-14-4>教育に関する意識／地域別、性・年代別

(エ) 家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している



### （8）千葉県の魅力発信に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人を知っている〉で約4割



千葉県の魅力発信に関する3つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人を知っている」(37.1%)で約4割となっており、以下、「(イ) 地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」(28.8%)が約3割、「(ウ) 県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生まれ出されている」(26.3%)が2割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(イ) 地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」(29.6%)と「(ア) 観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人を知っている」(28.2%)が約3割、以下、「(ウ) 県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生まれ出されている」(26.4%)が2割台半ばとなっている。

(図表1-15)

### 【地域別】

地域別にみると、「（ア）観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人知っている」の『そう思う（計）』は“安房地域”（56.3%）が5割台半ばで高くなっている。

「（イ）地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（33.1%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（55.3%）が5割台半ばで高くなっている。

「（ウ）県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生まれ出されている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（31.3%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（44.7%）が4割台半ばで高くなっている。

（図表1-16）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人知っている」の『そう思う（計）』は女性の50代（47.2%）が約5割で高くなっている。

「（イ）地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」の『そう思う（計）』は男性の20代（44.7%）が4割台半ば、女性の30代（37.0%）と女性の50代（37.3%）が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（36.5%）が3割台半ばで高くなっている。

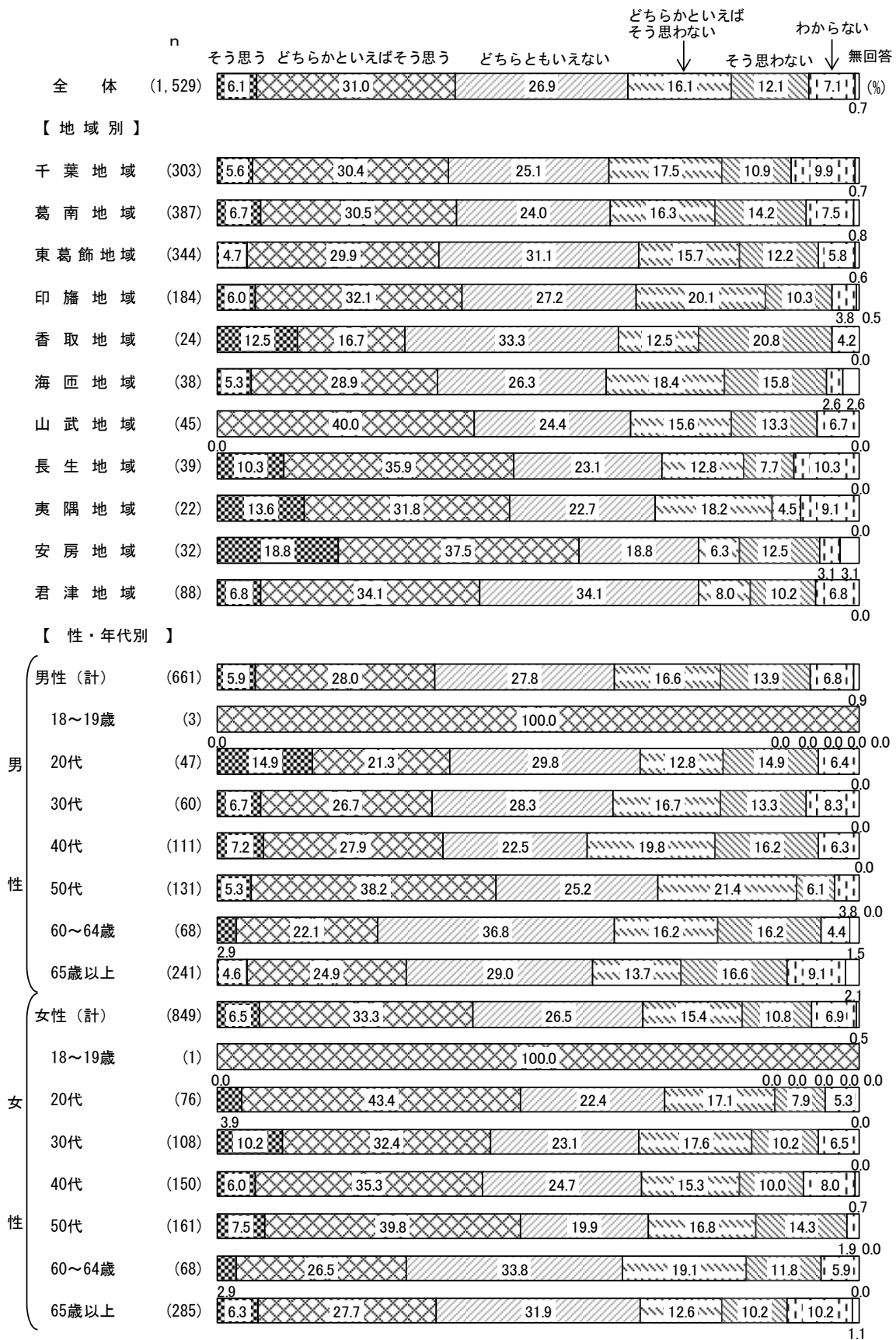
「（ウ）県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生まれ出されている」の『そう思う（計）』は男性の20代（40.4%）が4割、女性の20代（38.2%）と女性の50代（39.1%）が約4割、女性の40代（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（34.0%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表1-16）

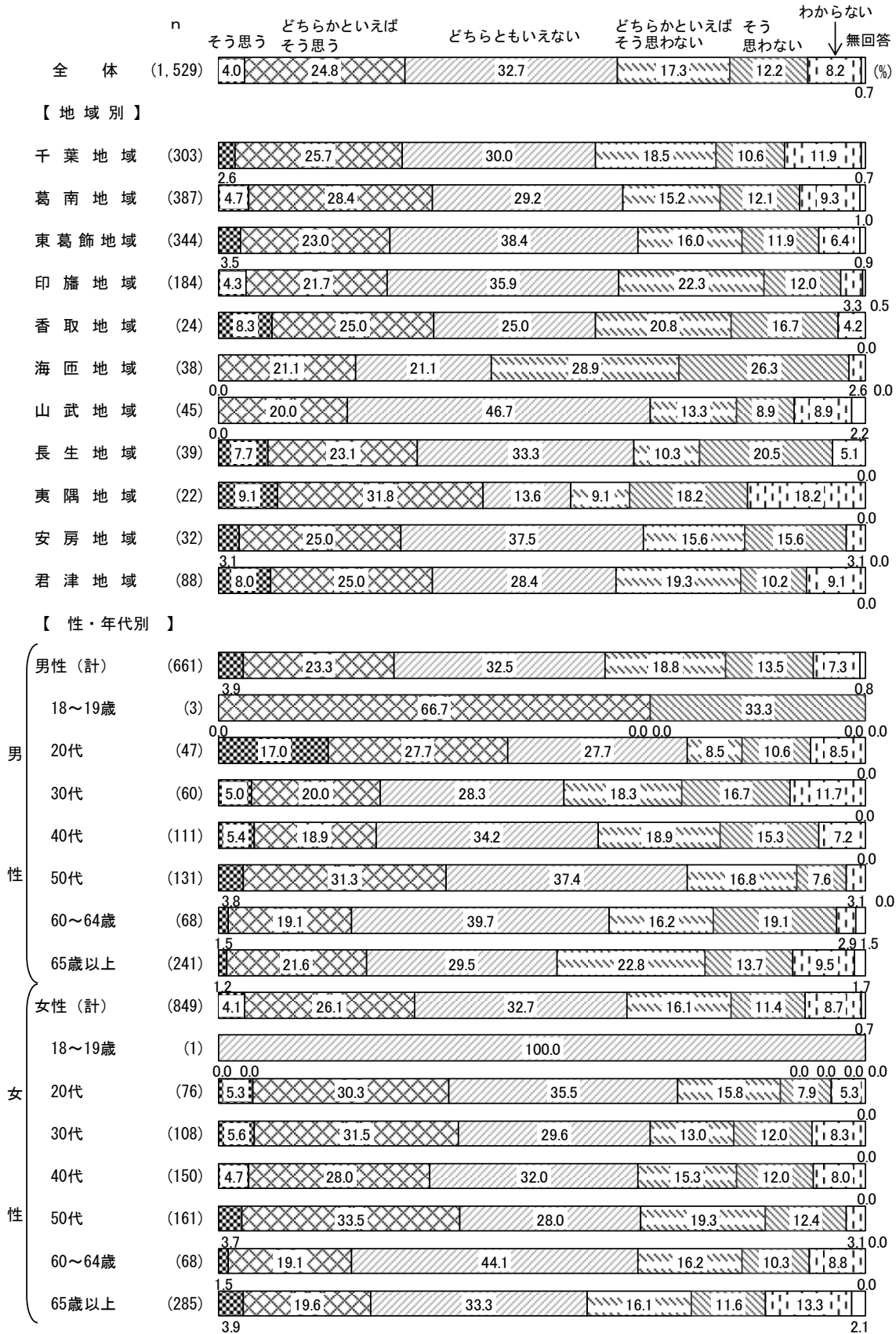
<図表1-16-1>千葉県の魅力発信に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人知っている



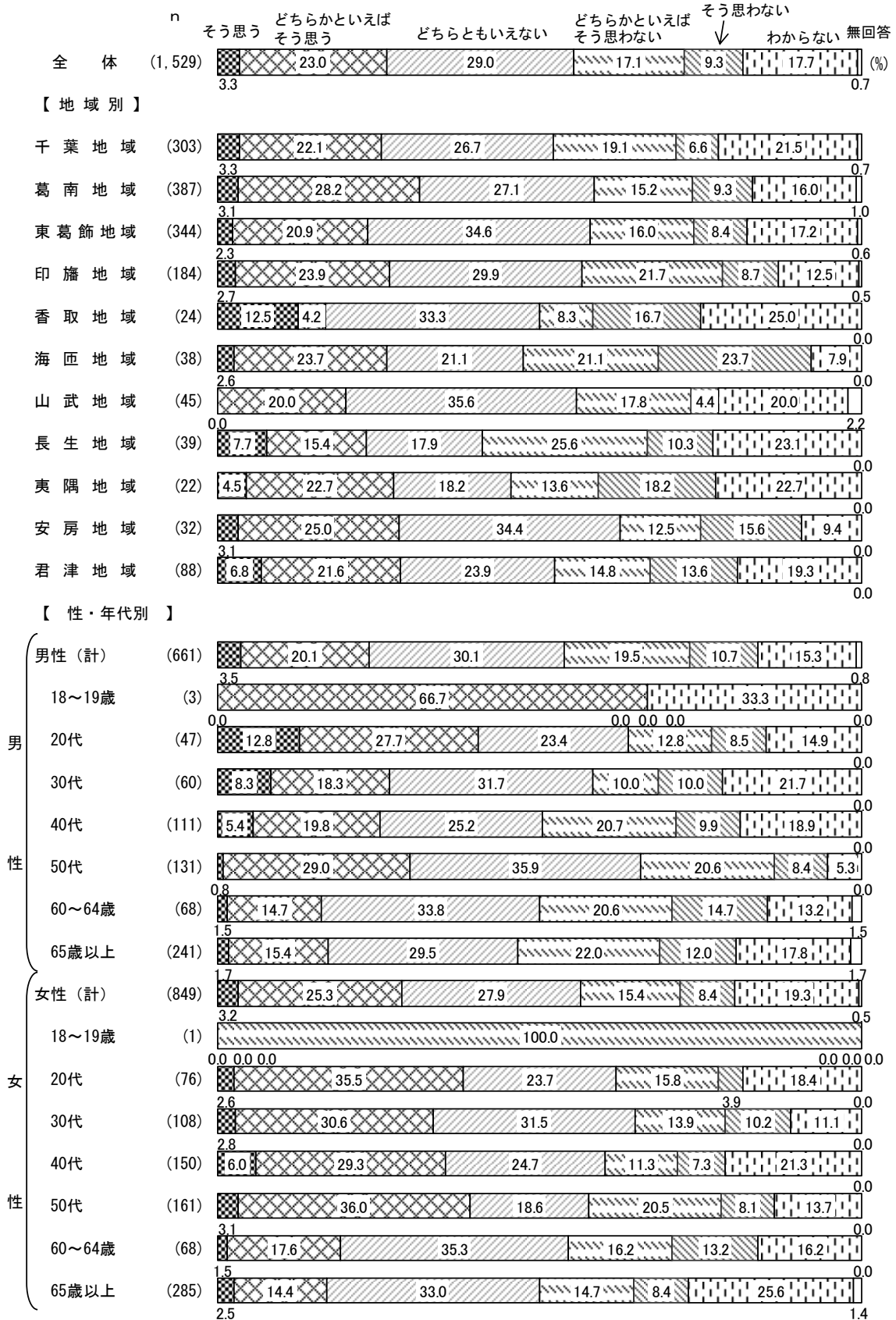


<図表1-16-2>千葉県の魅力発信に関する意識/地域別、性・年代別  
 (イ) 地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている



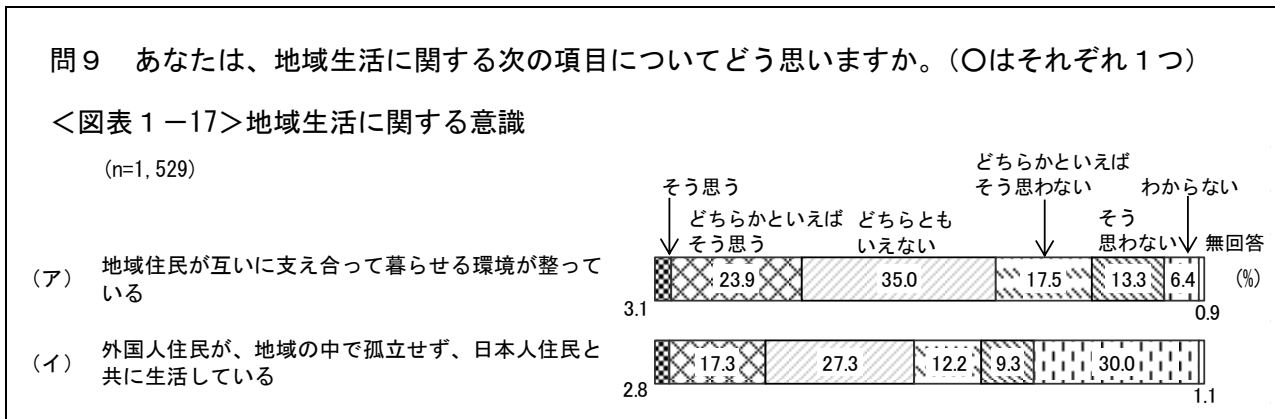
<図表1-16-3>千葉県の魅力発信に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている



（9）地域生活に関する意識

◇『そう思う（計）』が高いのは、く地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っているで約3割



地域生活に関する2個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が高いのは、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」(27.0%)で約3割となっており、次いで「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」(20.1%)が2割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」(30.7%)が3割となっており、次いで「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」(21.5%)が2割を超えている。(図表1-17)

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“安房地域” (43.8%) が4割台半ばで高くなっている。

「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」の『そう思う（計）』は“葛南地域” (23.8%) が2割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域” (42.1%) が4割を超えて高くなっている。

(図表1-18)

【性・年代別】

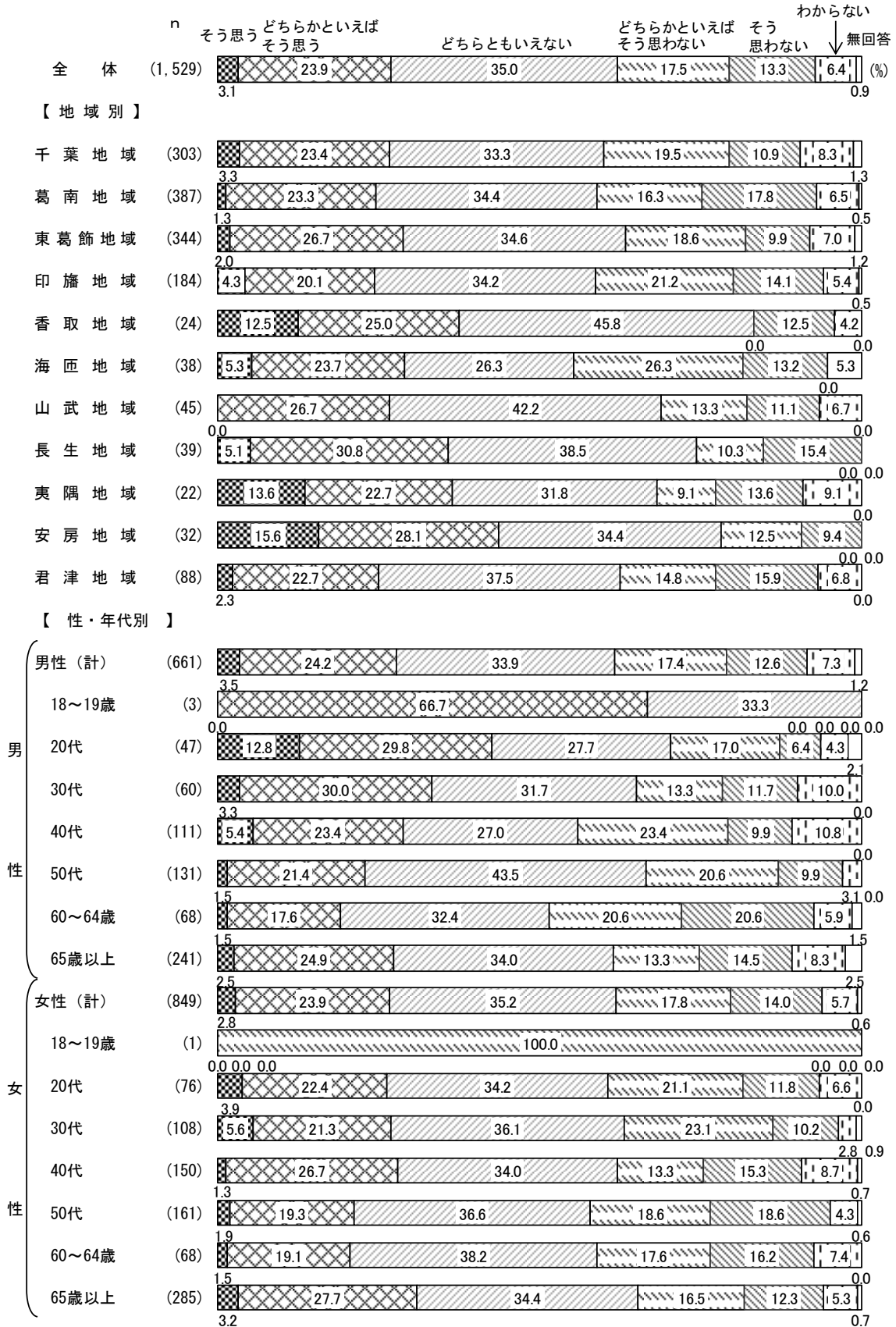
性・年代別にみると、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の20代 (42.6%) が4割を超えて高くなっている。

「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」の『そう思う（計）』は女性の20代 (30.3%) と女性の30代 (30.6%) が3割、女性の40代 (28.0%) が約3割で高くなっている。

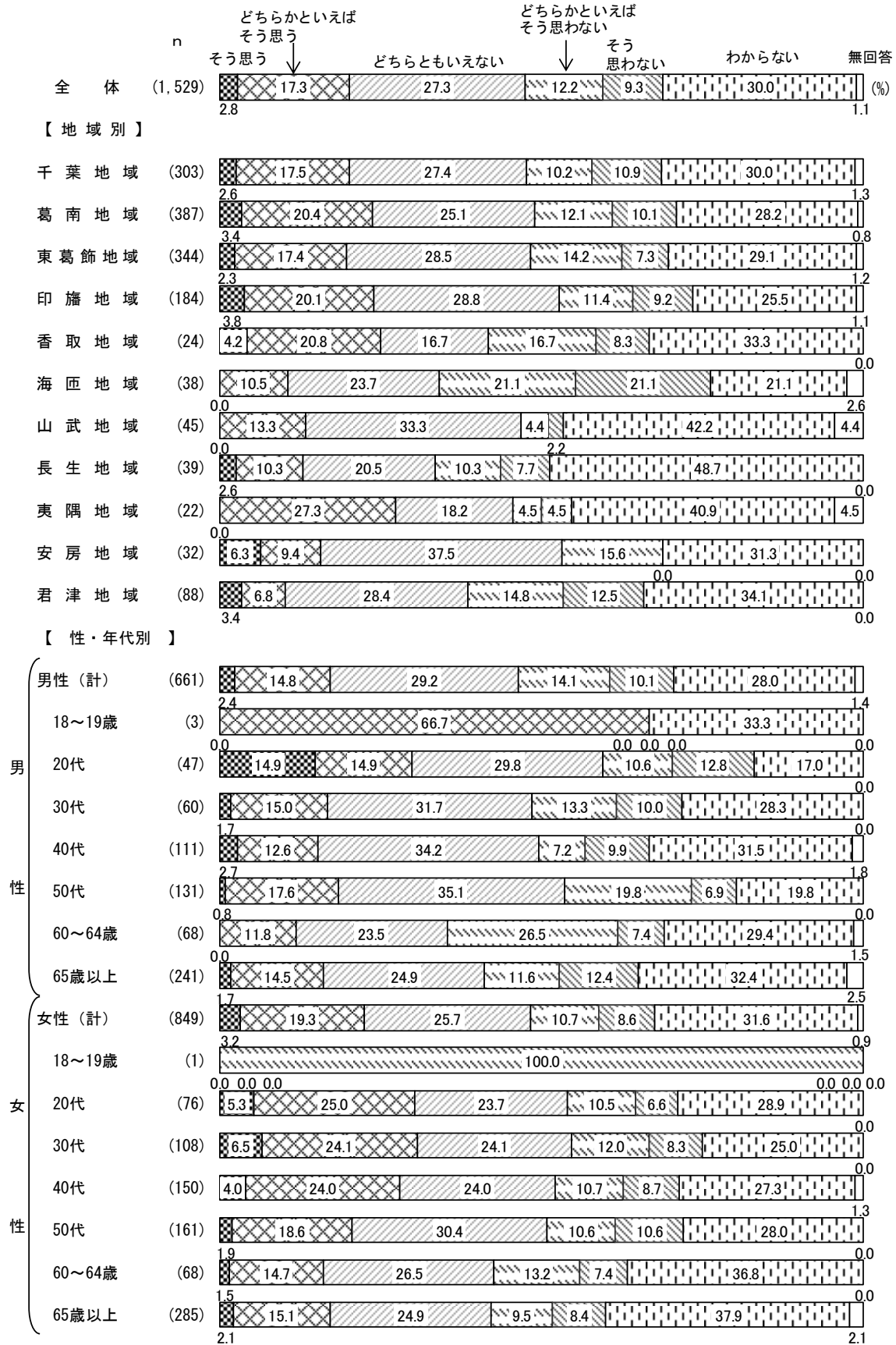
一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳 (33.8%) が3割台半ばで高くなっている。

(図表1-18)

＜図表1-18-1＞地域生活に関する意識／地域別、性・年代別  
 (ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている

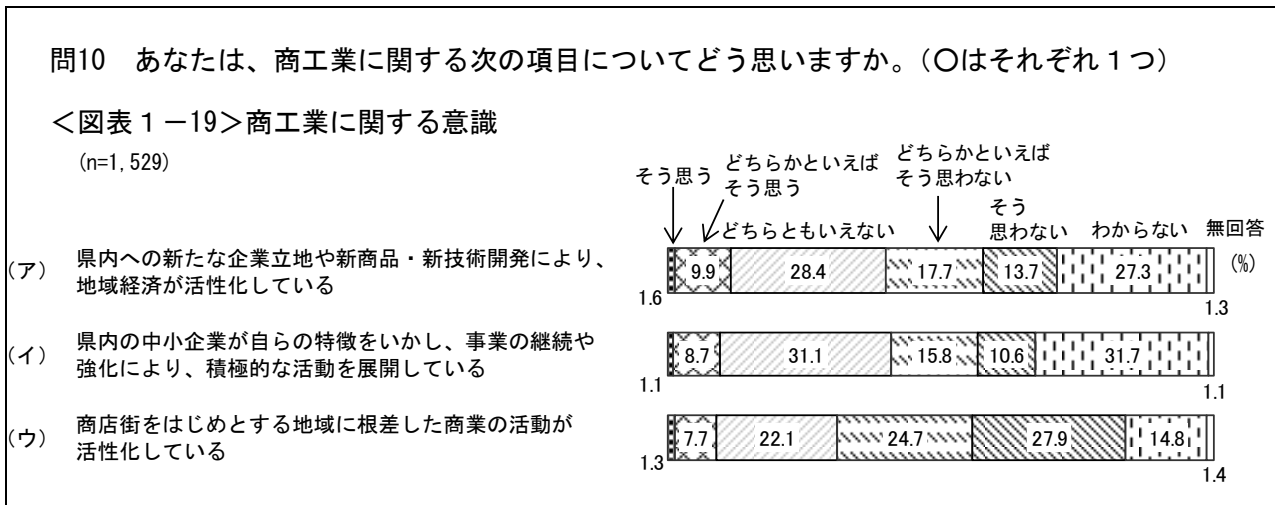


＜図表1-18-2＞地域生活に関する意識／地域別、性・年代別  
 (イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している



### (10) 商工業に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している〉で1割を超える



商工業に関する3個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」(11.6%)で1割を超えており、以下、「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」(9.8%)と「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」(9.0%)が約1割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」(52.6%)が5割を超えており、以下、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」(31.4%)が3割を超え、「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」(26.4%)が2割台半ばとなっている。(図表1-19)

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」の『そう思う(計)』は“君津地域”(18.2%)が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“長生地域”(56.4%)が5割台半ば、“海匝地域”(52.6%)が5割を超えて高くなっている。

「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」の『そう思わない(計)』は“長生地域”(51.3%)が5割を超え、“海匝地域”(44.7%)が4割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」の『そう思う(計)』は“葛南地域”(13.4%)が1割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(76.3%)が7割台半ば、“安房地域”(71.9%)が7割を超え、“長生地域”(69.2%)が約7割で高くなっている。

(図表1-20)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」の『そう思う(計)』は男性の20代(31.9%)が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の60～64歳(45.6%)が4割台半ばで高くなっている。

「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」の『そう思う(計)』は男性の20代(34.0%)が3割台半ば、女性の20代(17.1%)が約2割で高くなっている。

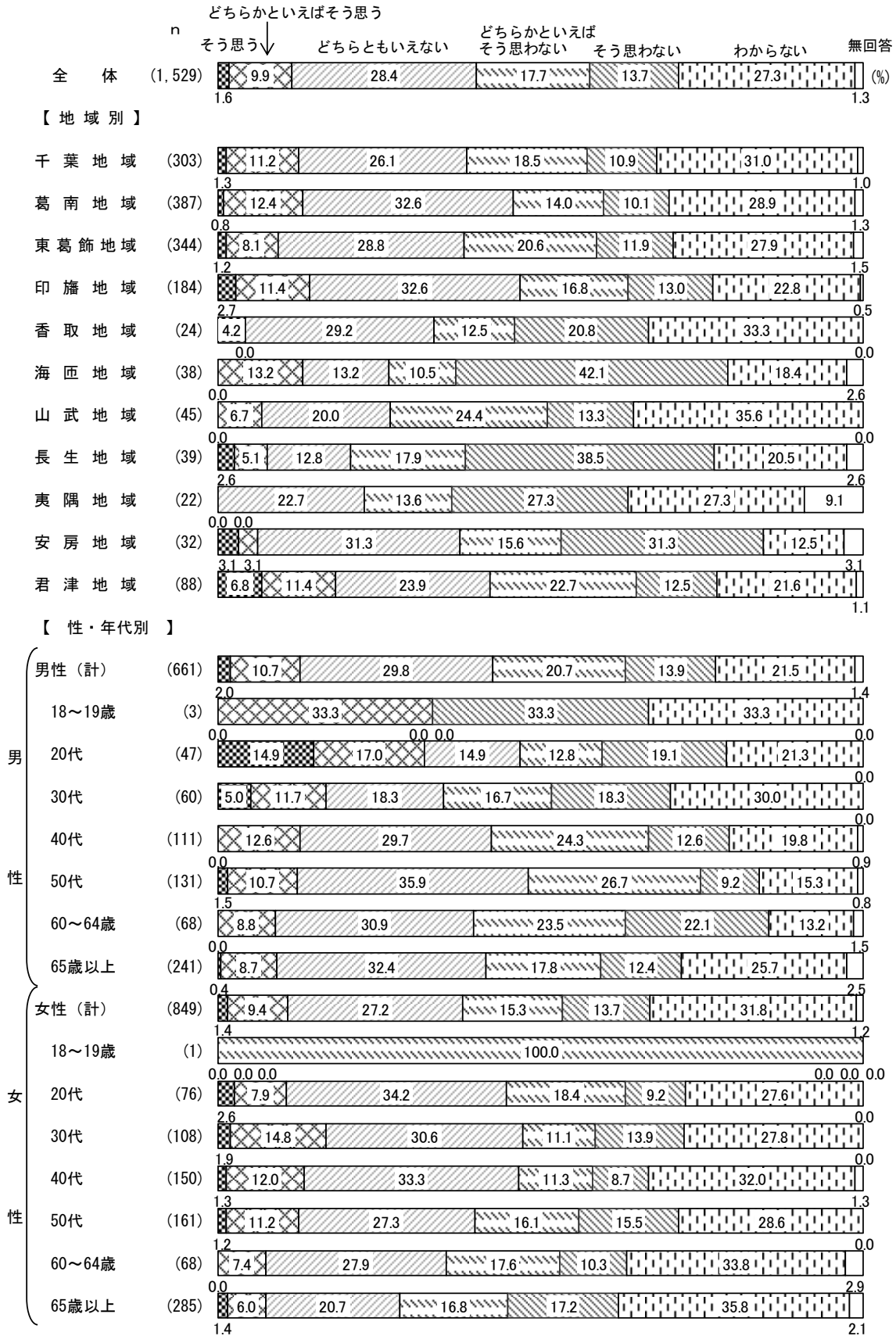
一方、『そう思わない(計)』は男性の60～64歳(39.7%)が約4割で高くなっている。

「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」の『そう思う(計)』は女性の20代(15.8%)と女性の30代(14.8%)が1割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の60～64歳(67.6%)が約7割で高くなっている。

(図表1-20)

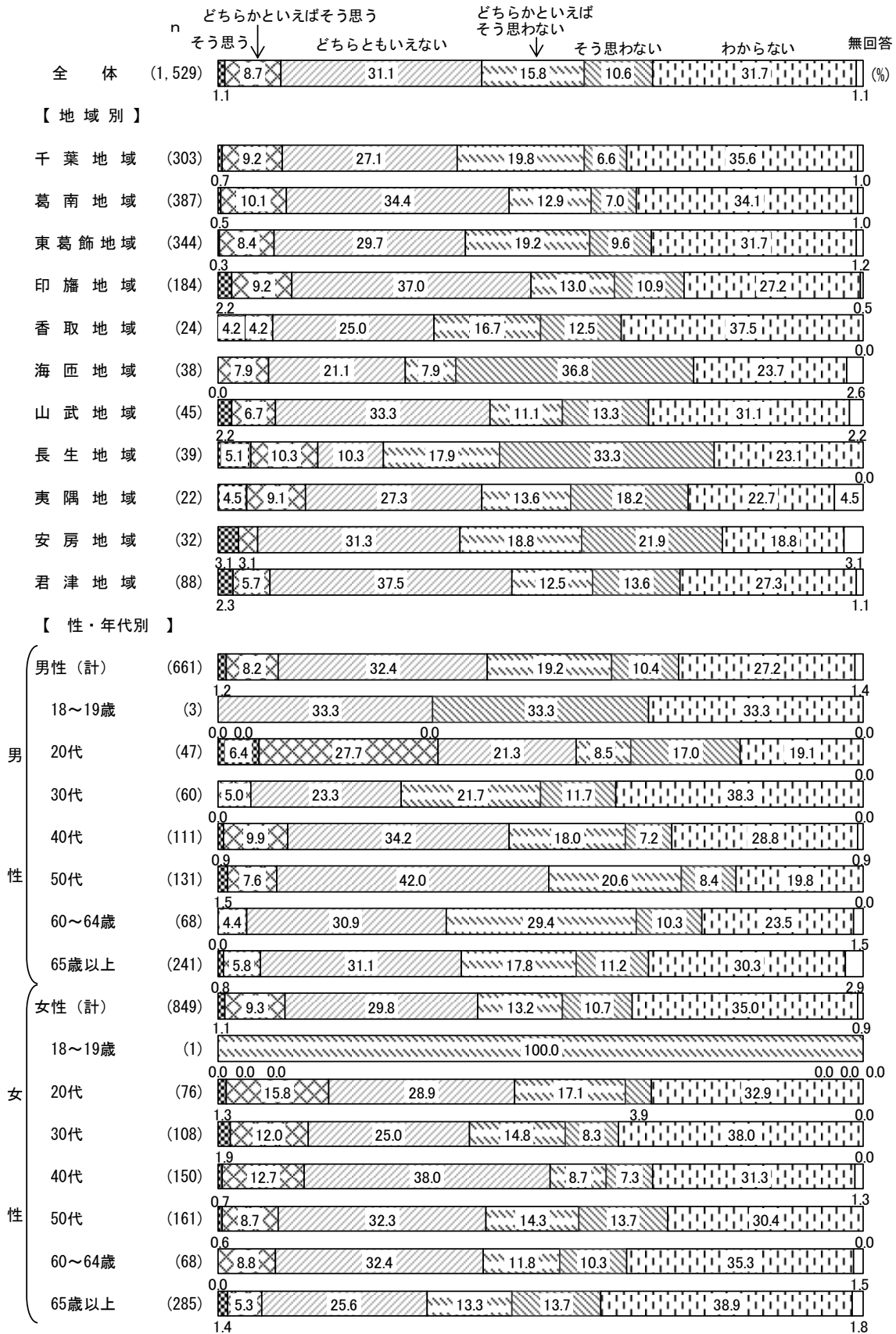
＜図表1-20-1＞商工業に関する意識／地域別、性・年代別  
 (ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している



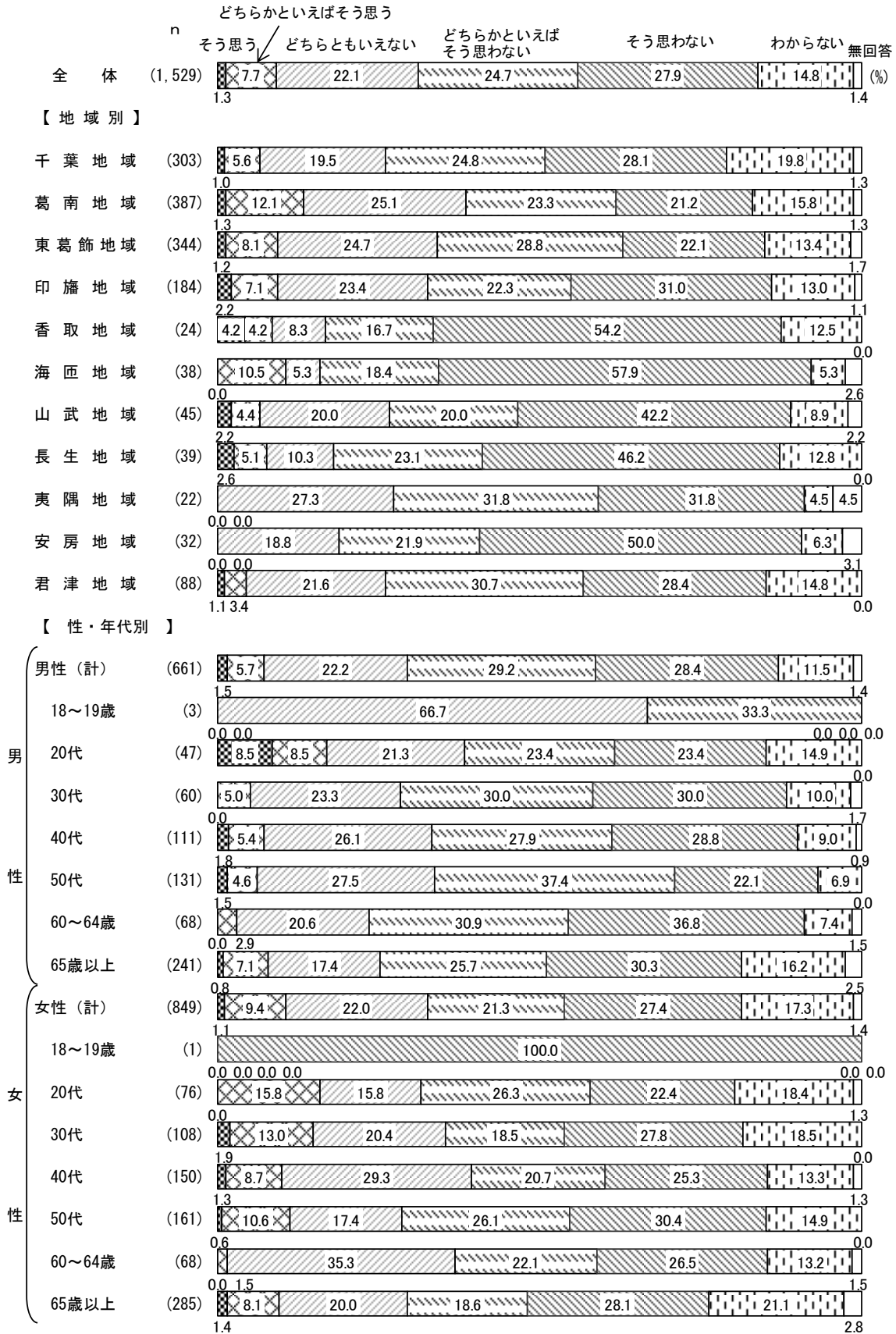


<図表1-20-2> 商工業に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している

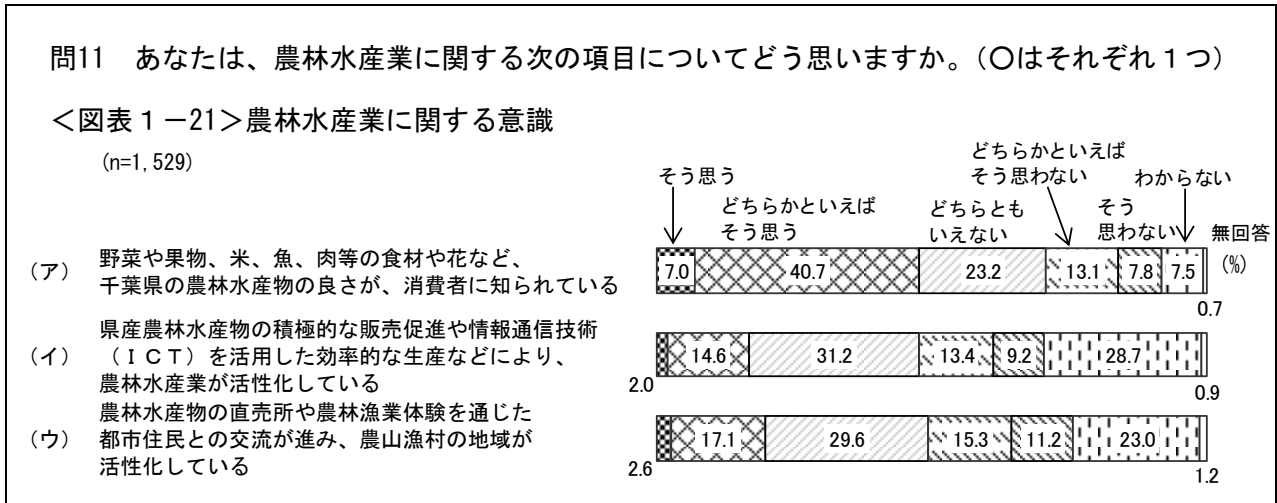


＜図表1-20-3＞商工業に関する意識／地域別、性・年代別  
 (ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している



(11) 農林水産業に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている〉で約5割



農林水産業に関する3個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている」(47.7%)で約5割となっており、以下、「(ウ) 農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」(19.7%)が約2割、「(イ) 県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」(16.6%)が1割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」(26.5%)が2割台半ばとなっており、以下、「(イ) 県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」(22.6%)と「(ア) 野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている」(21.0%)が2割を超えている。（図表1-21）

### 【地域別】

地域別にみると、「（イ）県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（41.7%）が4割を超えて高くなっている。

「（ウ）農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（45.8%）が4割台半ばで高くなっている。（図表1-22）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている」の『そう思う（計）』は女性の20代（60.5%）が6割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（30.9%）が3割で高くなっている。

「（イ）県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」の『そう思う（計）』は男性の20代（34.0%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の50代（32.8%）が3割を超え、男性の65歳以上（29.0%）が約3割で高くなっている。

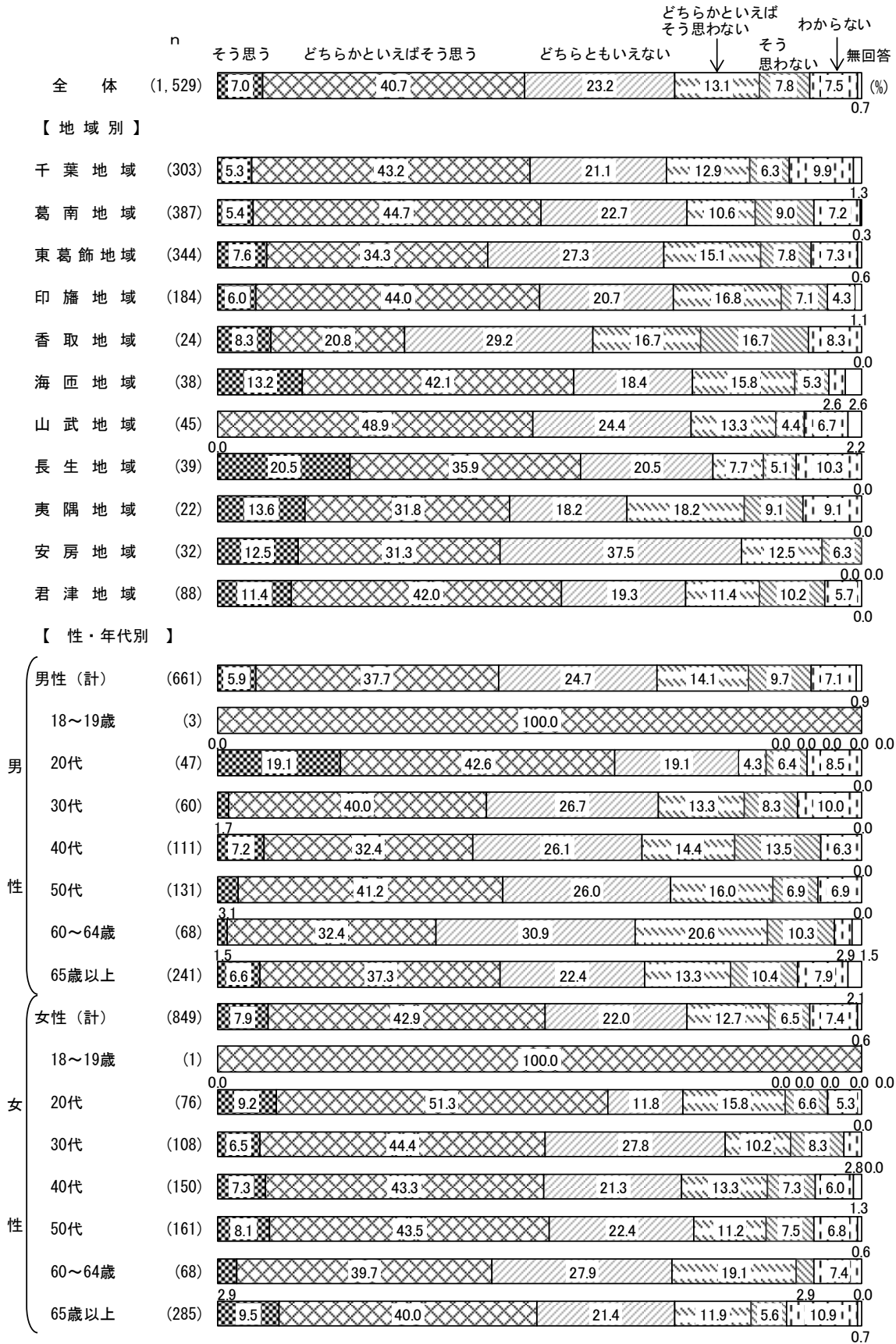
「（ウ）農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」の『そう思う（計）』は男性の20代（31.9%）が3割を超え、女性の40代（30.0%）が3割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（34.4%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表1-22）

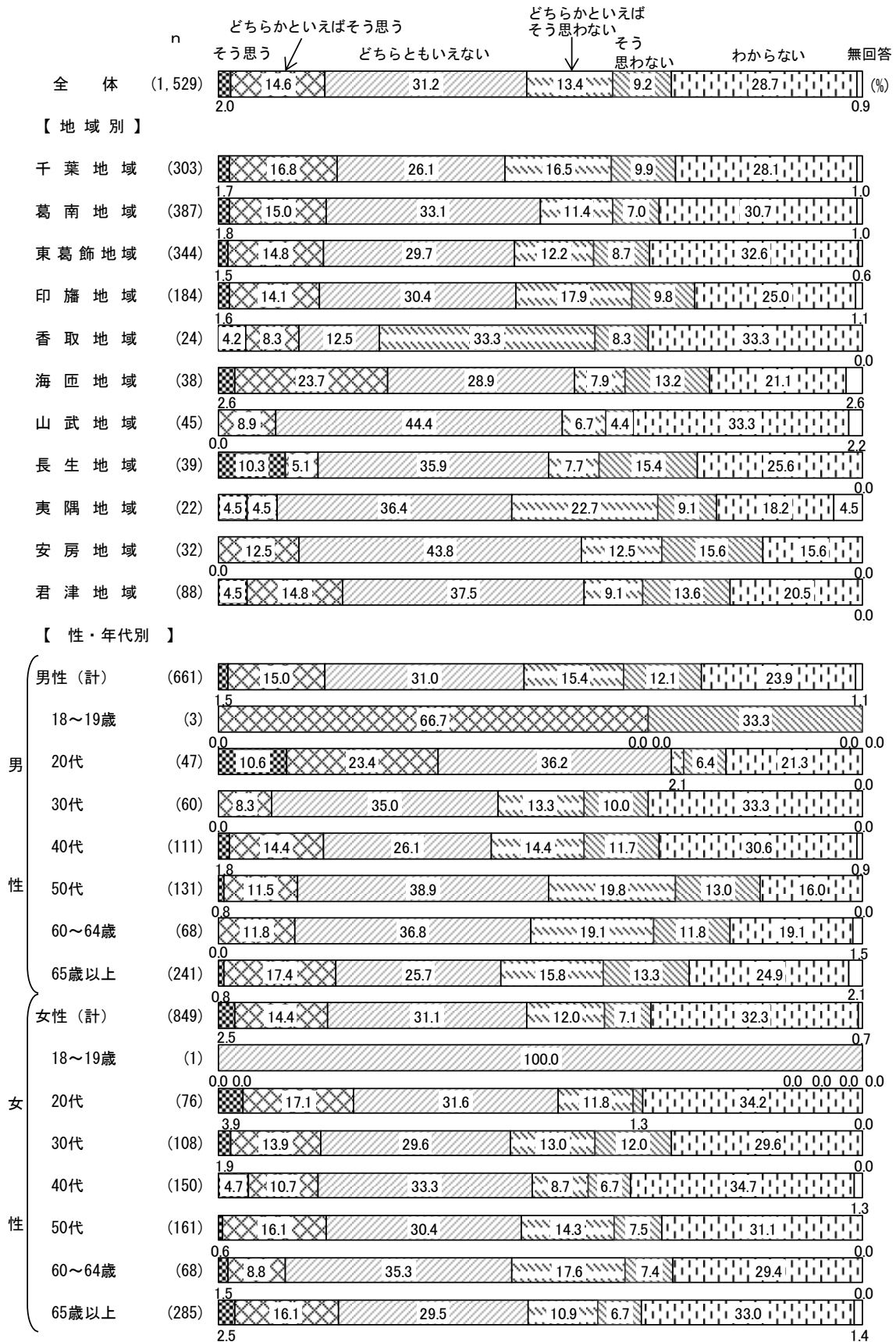
<図表1-22-1> 農林水産業に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県農林水産物の良さが、消費者に知られている



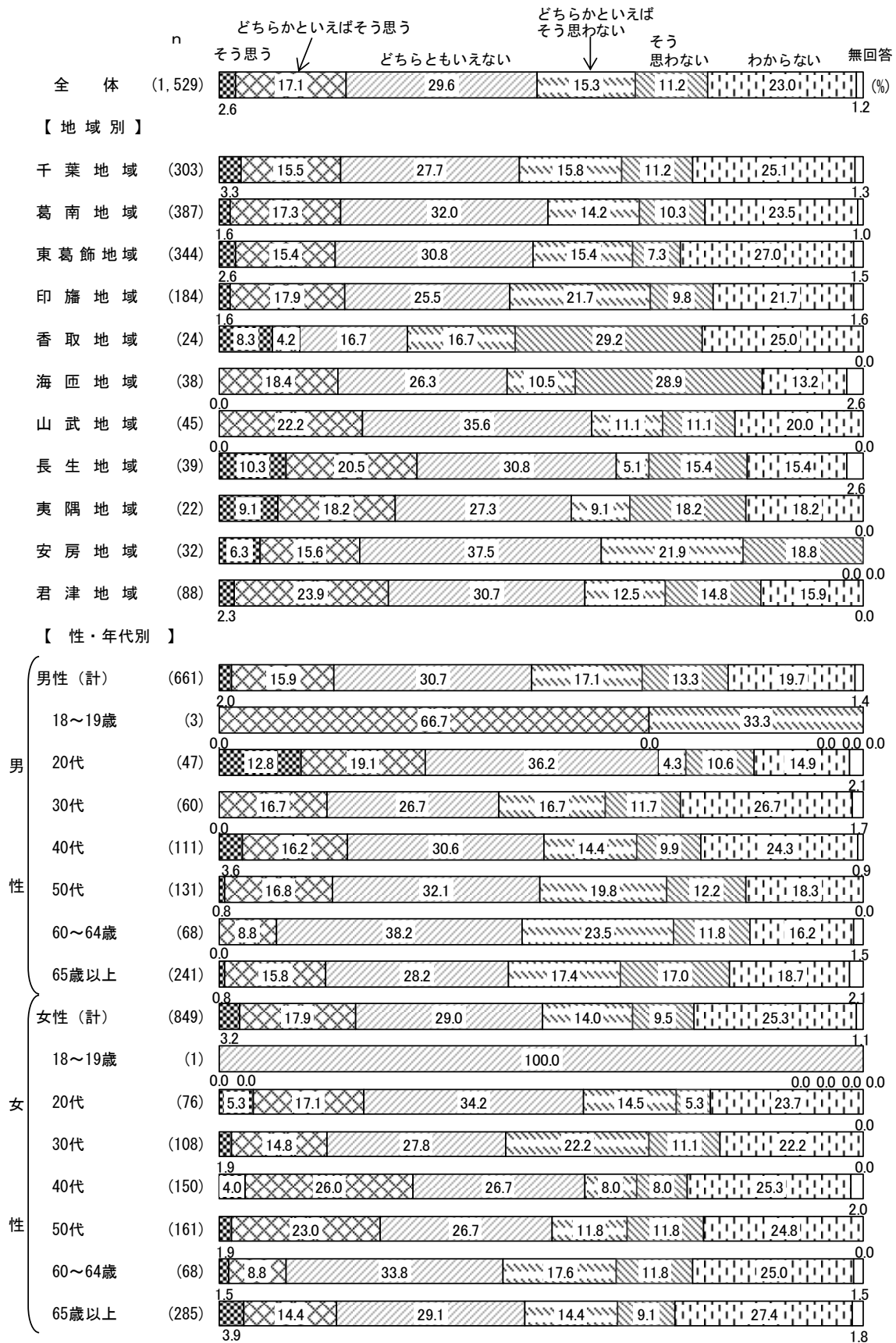
<図表1-22-2> 農林水産業に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している



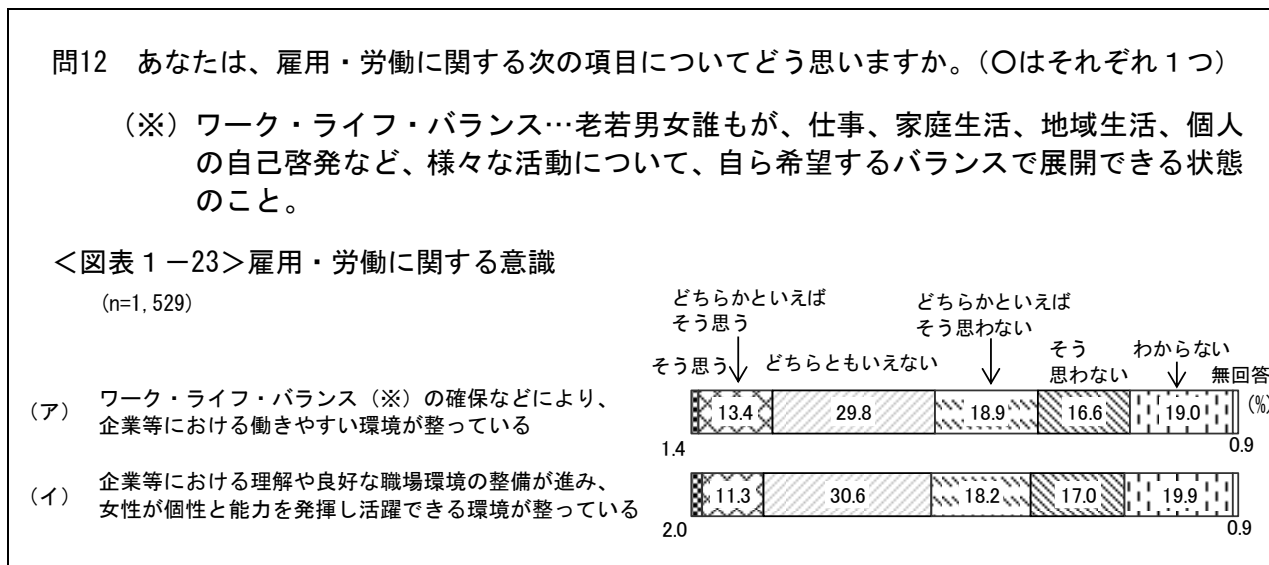
<図表1-22-3> 農林水産業に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している



## (12) 雇用・労働に関する意識

◇『そう思う（計）』が高いのは、〈ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている〉で1割台半ば



雇用・労働に関する2個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が高いのは、「(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている」(14.8%)で1割台半ばとなっており、次いで「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」(13.3%)が1割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、「(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている」(35.5%)と「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」(35.3%)が3割台半ばとなっている。(図表1-23)



**【地域別】**

地域別にみると、「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“葛南地域”(17.1%)が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匠地域”(52.6%)が5割を超え、“印旛地域”(42.4%)が4割を超えて高くなっている。(図表1-24)

**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている」の『そう思う(計)』は女性の20代(26.3%)が2割台半ば、女性の30代(23.1%)が2割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の20代(46.1%)が4割台半ばで高くなっている。

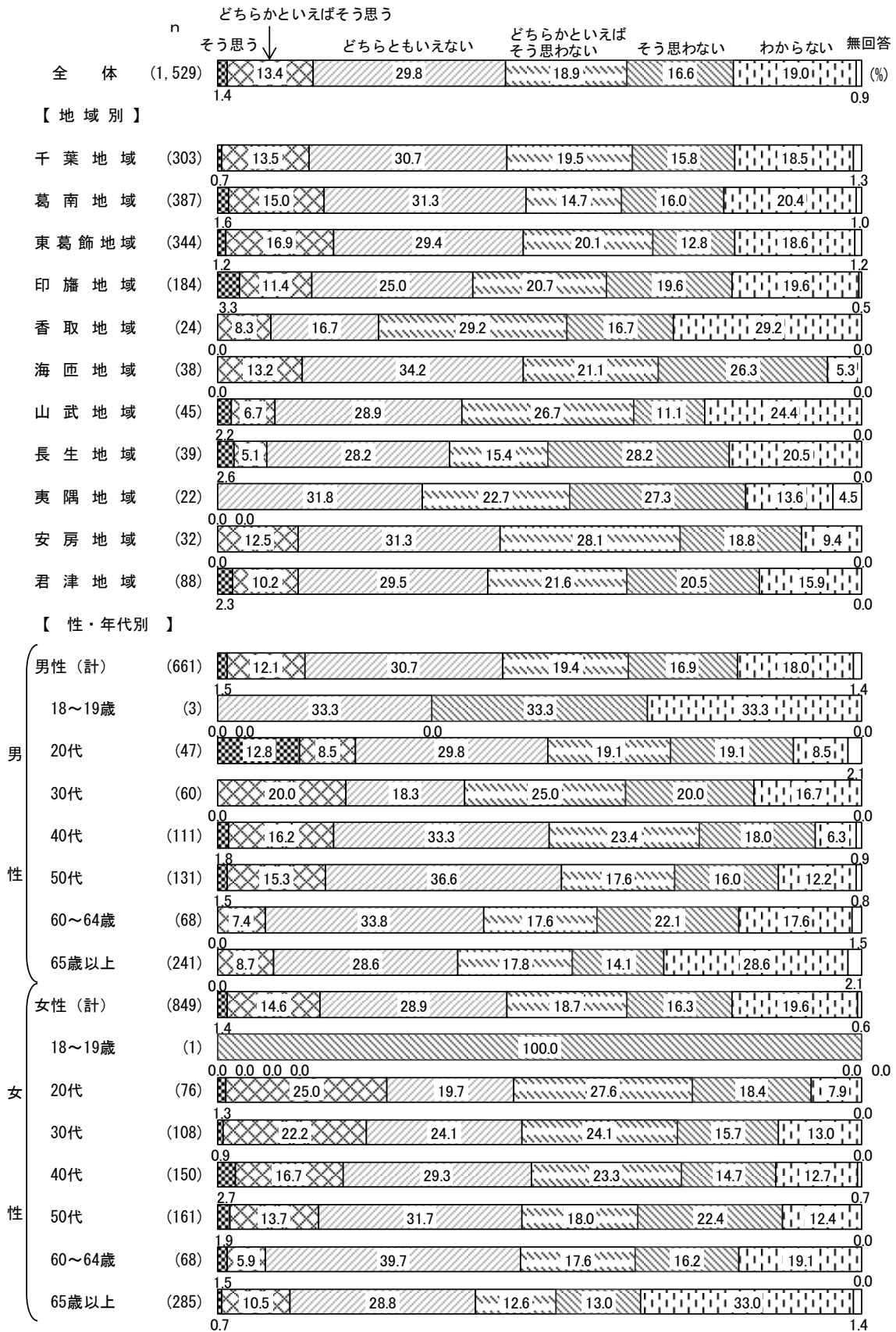
「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は男性の20代(34.0%)が3割台半ば、女性の20代(25.0%)が2割台半ば、女性の30代(20.4%)が2割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の50代(42.2%)が4割を超えて高くなっている。

(図表1-24)

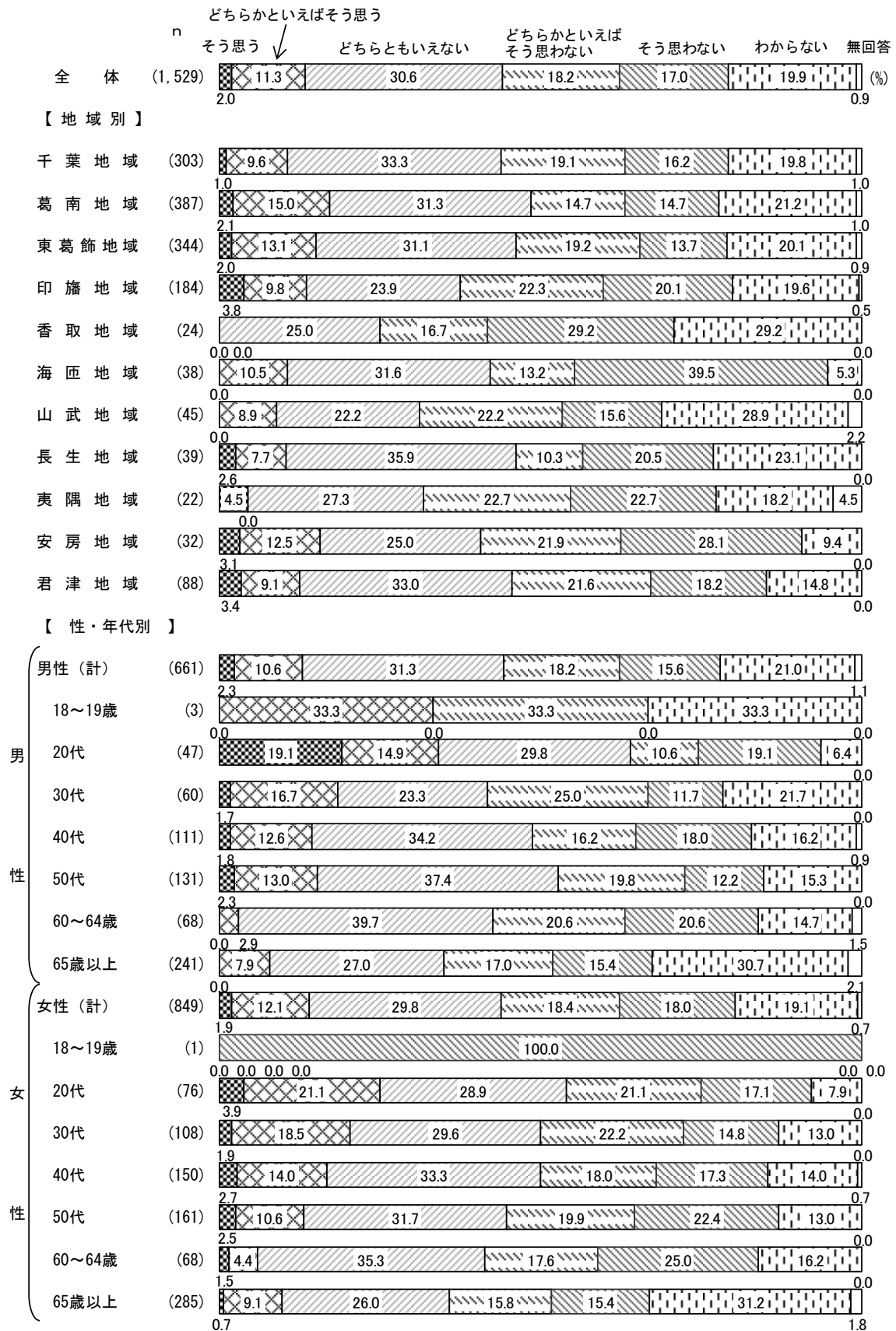
<図表1-24-1>雇用・労働に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている



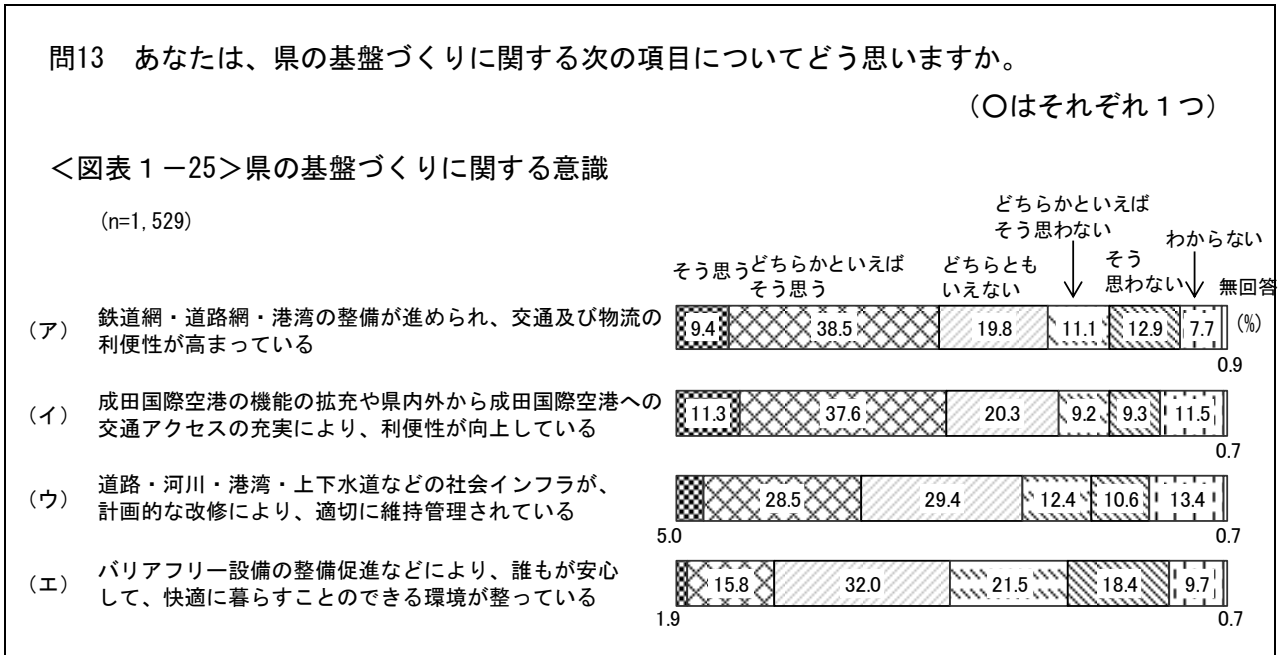
<図表1-24-2>雇用・労働に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている



(13) 県の基盤づくりに関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している〉で約5割



県の基盤づくりに関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(イ) 成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している」(48.9%)で約5割となっており、以下、「(ア) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」(47.8%)が約5割、「(ウ) 道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている」(33.5%)が3割台半ばで続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(エ) バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている」(39.9%)が約4割となっており、以下、「(ア) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」(23.9%)が2割台半ば、「(ウ) 道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている」(23.0%)が2割を超えて続く。(図表1-25)

### 【地域別】

地域別にみると、「（ア）鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（55.6%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（55.3%）が5割台半ば、“安房地域”（46.9%）が4割台半ば、“香取地域”（41.7%）が4割を超え、“印旛地域”（31.5%）が3割を超えて高くなっている。

「（イ）成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（54.8%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が4割を超えて高くなっている。

「（ウ）道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（40.6%）が4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（39.5%）が約4割で高くなっている。

「（エ）バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（21.4%）が2割を超えて高くなっている。

（図表1-26）

### 【性・年代別】

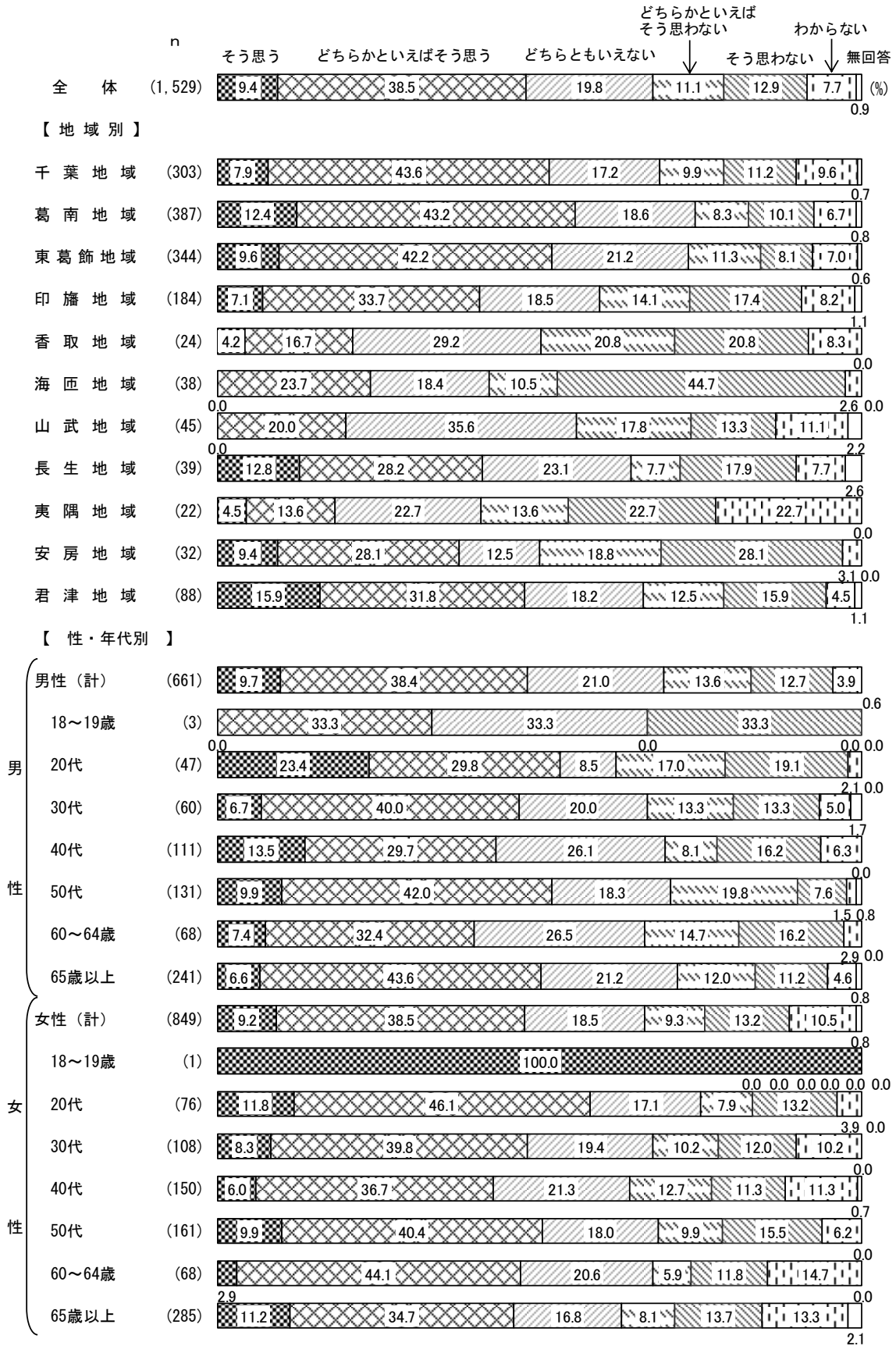
性・年代別にみると、「（ア）鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」の『そう思わない（計）』は男性の20代（36.2%）が3割台半ばで高くなっている。

「（イ）成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は女性の20代（63.2%）が6割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（29.4%）が約3割、男性の50代（26.7%）が2割台半ばで高くなっている。

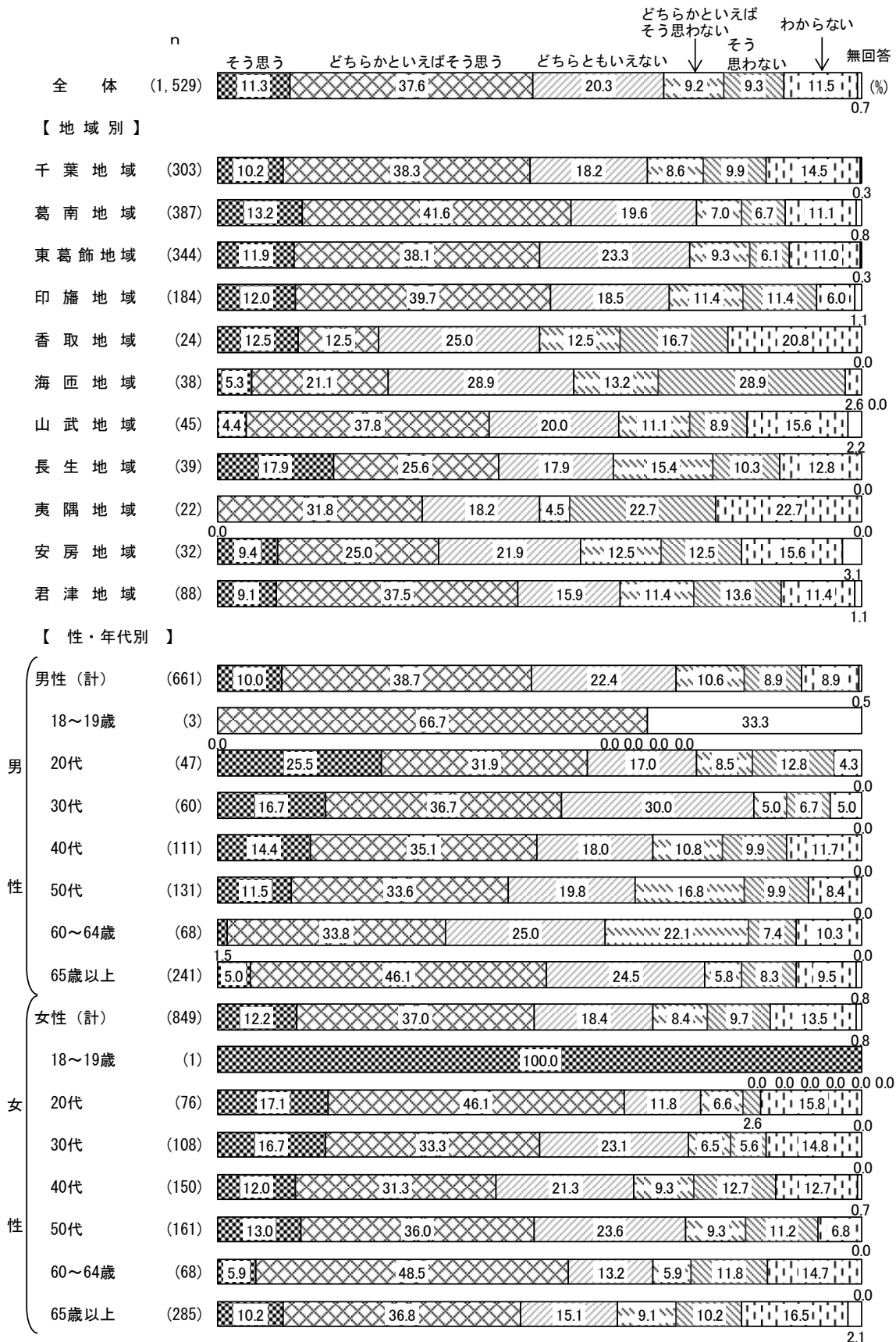
「（エ）バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の20代（38.3%）が約4割、女性の20代（35.5%）が3割台半ばで高くなっている。（図表1-26）

＜図表1-26-1＞県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別  
 (ア) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている



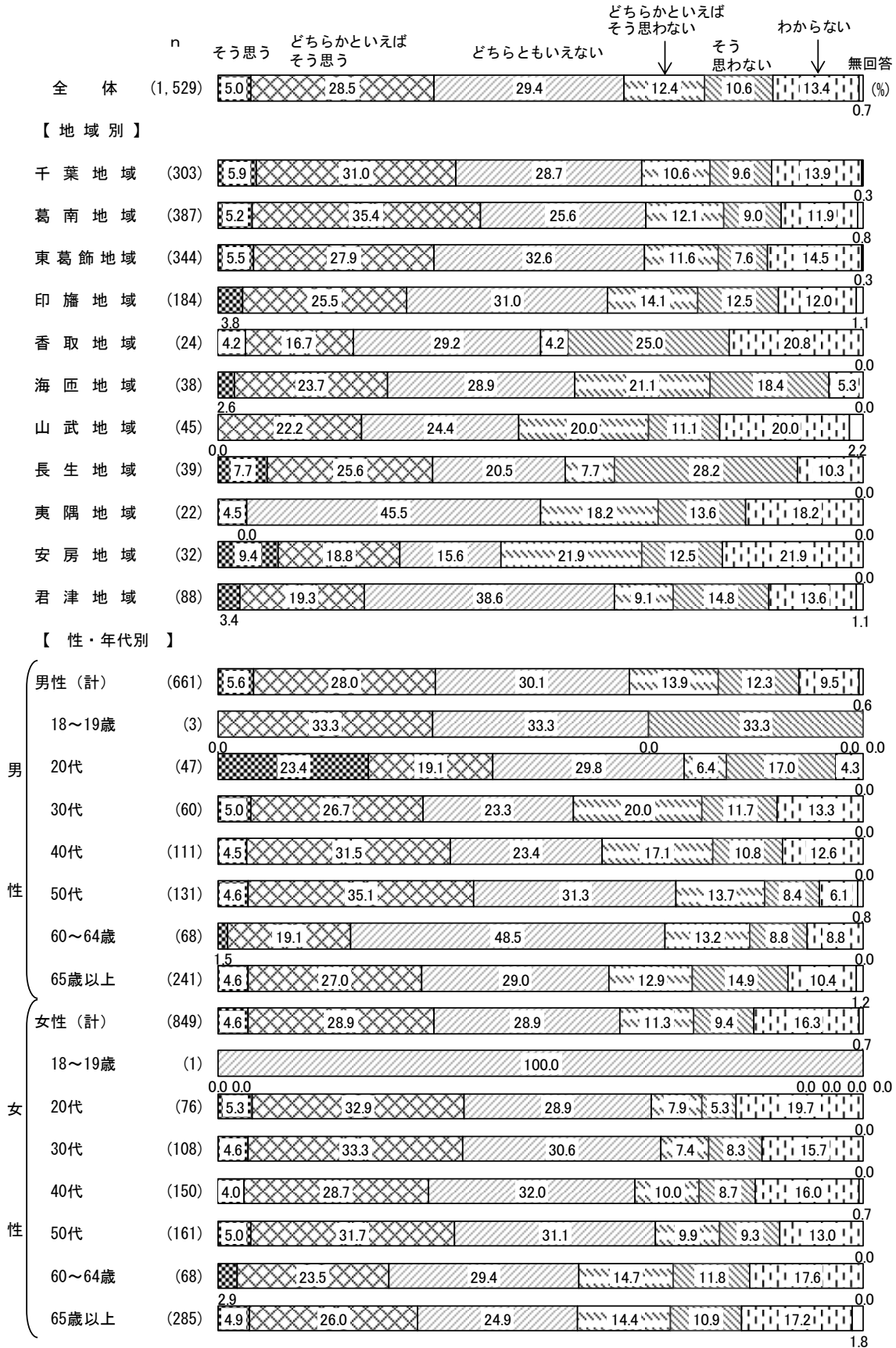
<図表1-26-2> 県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している



<図表1-26-3> 県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

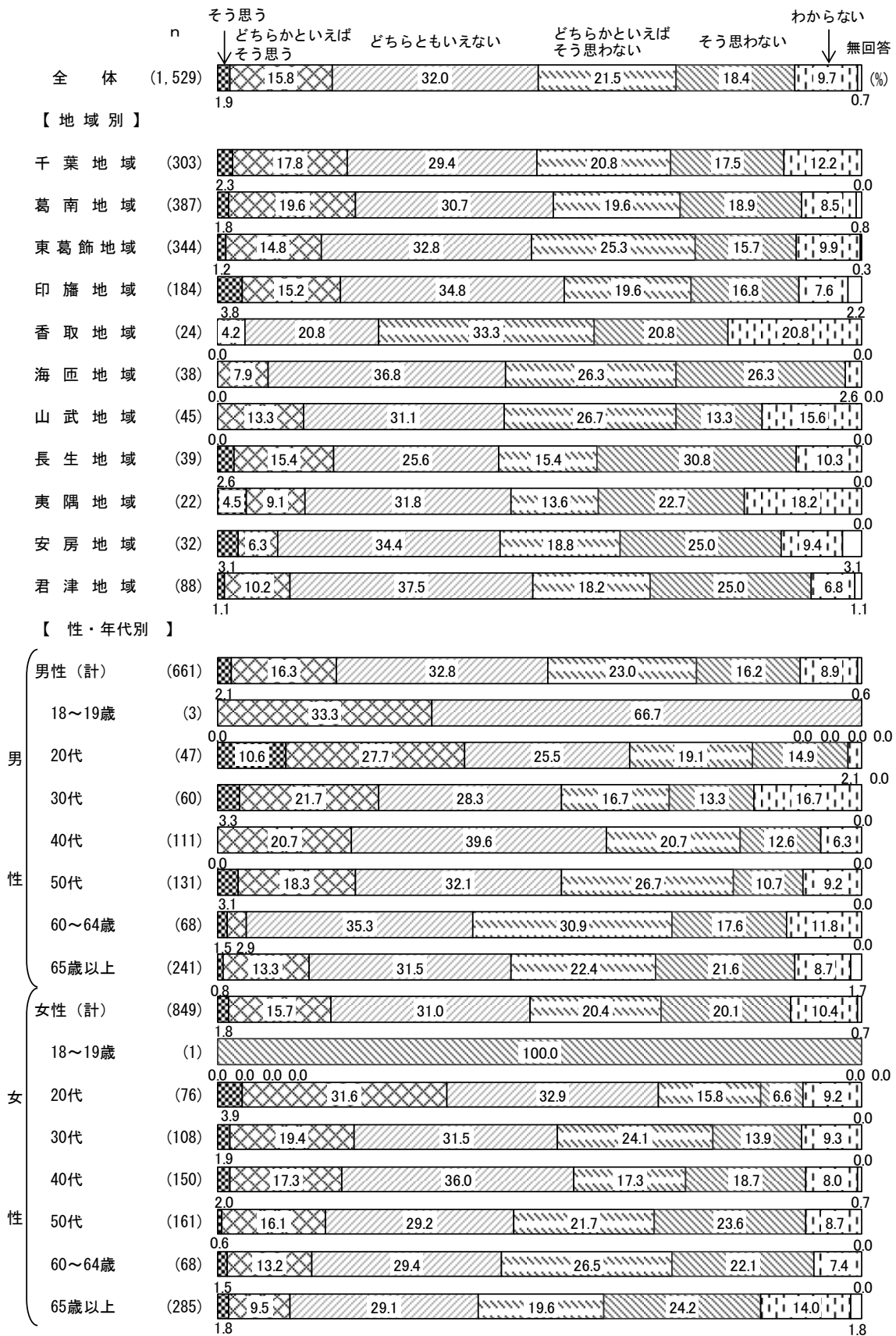
(ウ) 道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている





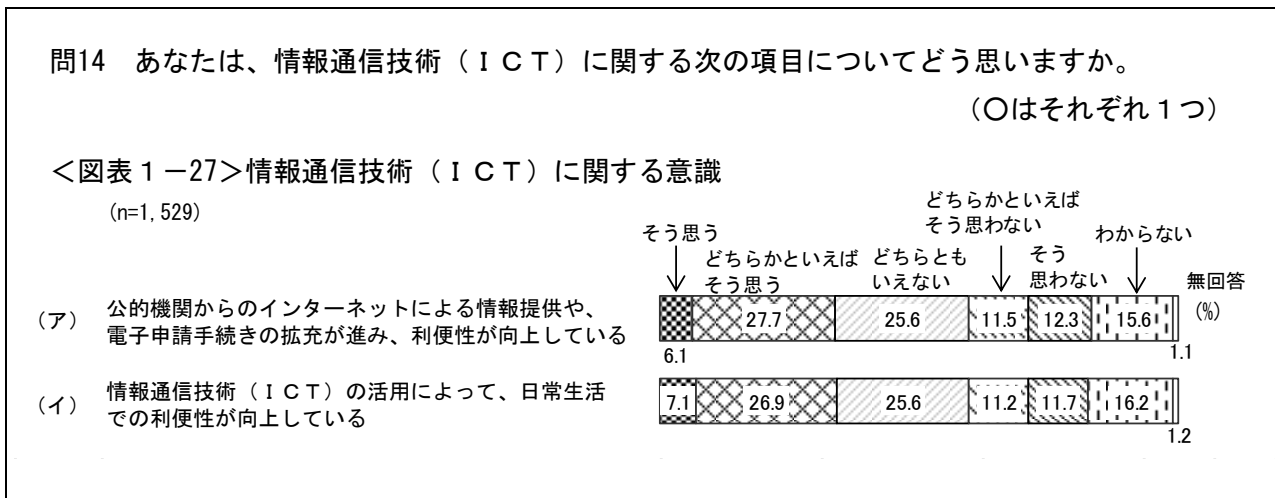
<図表1-26-4> 県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

(エ) バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている



(14) 情報通信技術（ICT）に関する意識

◇『そう思う（計）』で〈公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している〉〈情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している〉がともに3割台半ば



情報通信技術（ICT）に関する2個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は、「(ア) 公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」(33.9%)と「(イ) 情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」(33.9%)ともに3割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、「(ア) 公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」(23.8%)が2割台半ば、「(イ) 情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」(23.0%)が2割を超えている。(図表1-27)

### 【地域別】

地域別にみると、「（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（39.3%）が約4割で高くなっている。

「（イ）情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（40.1%）が4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“長生地域”（38.5%）が約4割、“海匠地域”（36.8%）が3割台半ば、“君津地域”（31.8%）が3割を超えて高くなっている。

（図表1-28）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は男性の20代（51.1%）と女性の20代（51.3%）が5割を超え、男性の30代（48.3%）と女性の30代（48.1%）が約5割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（33.8%）が3割台半ば、男性の40代（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

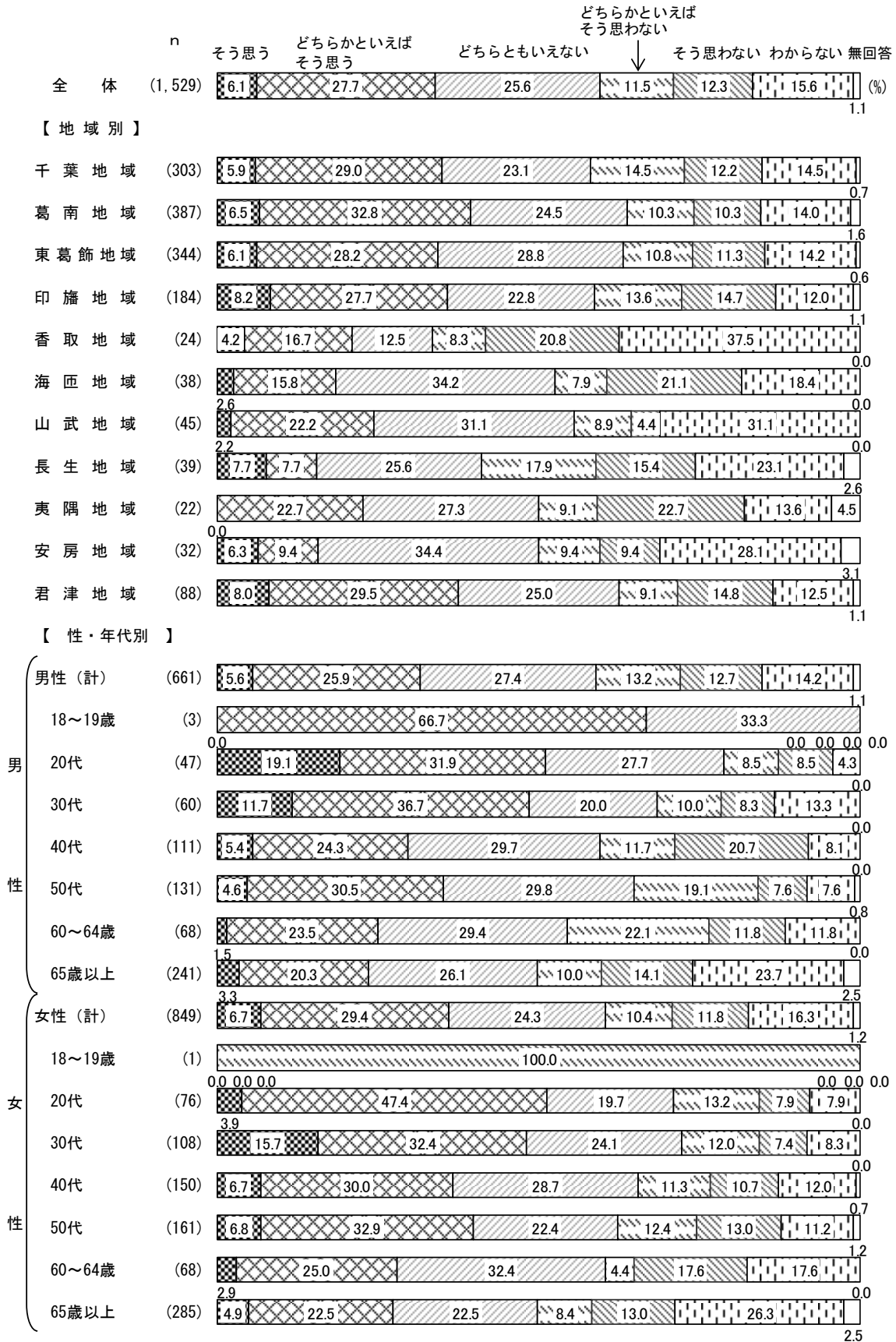
「（イ）情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」の『そう思う（計）』は男性の20代（55.3%）が5割台半ば、女性の20代（52.6%）が5割を超え、女性の30代（45.4%）が4割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の40代（30.6%）が3割で高くなっている。

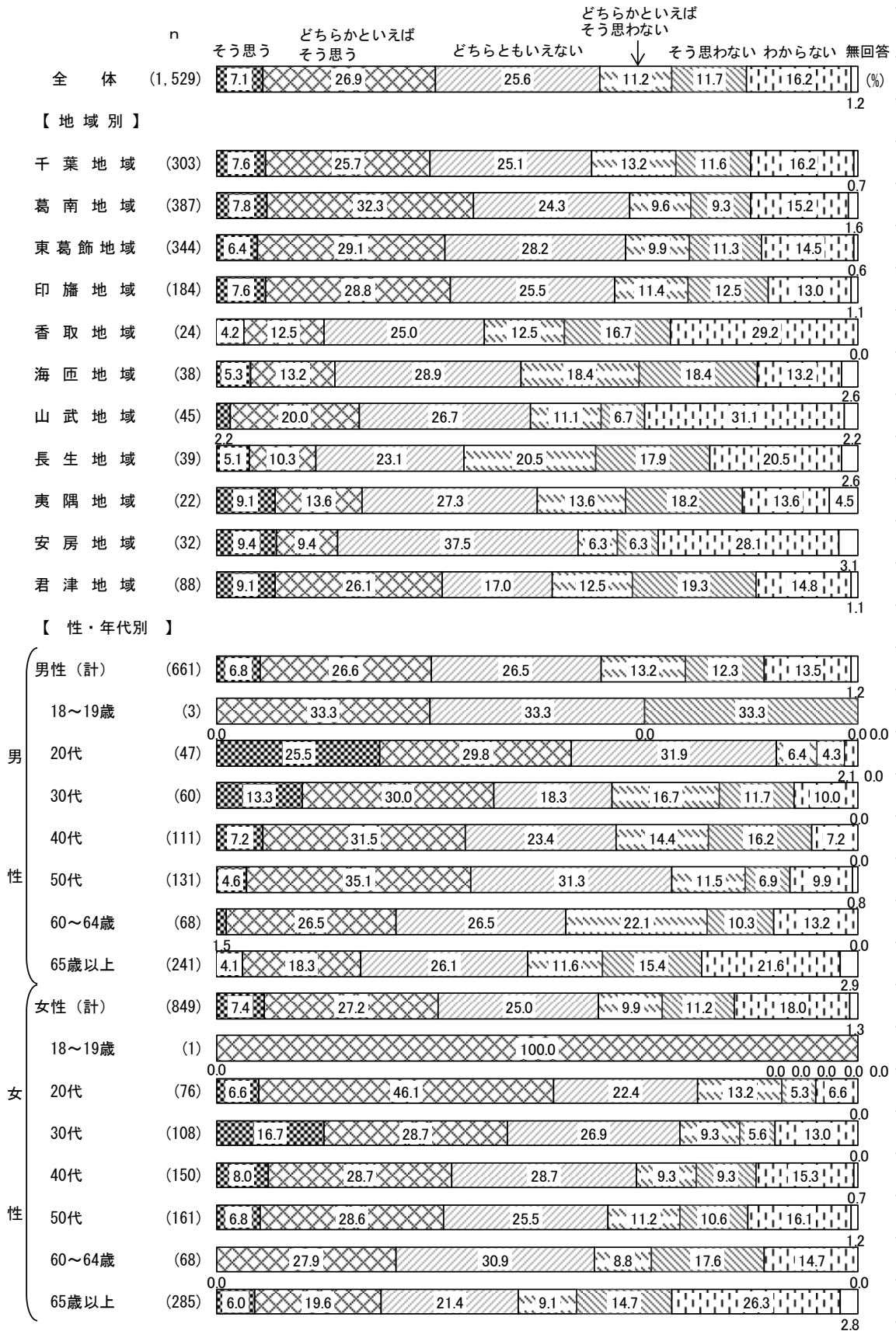
（図表1-28）

<図表1-28-1>情報通信技術（ICT）に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している



＜図表1-28-2＞情報通信技術（ICT）に関する意識／地域別、性・年代別  
 (イ) 情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している

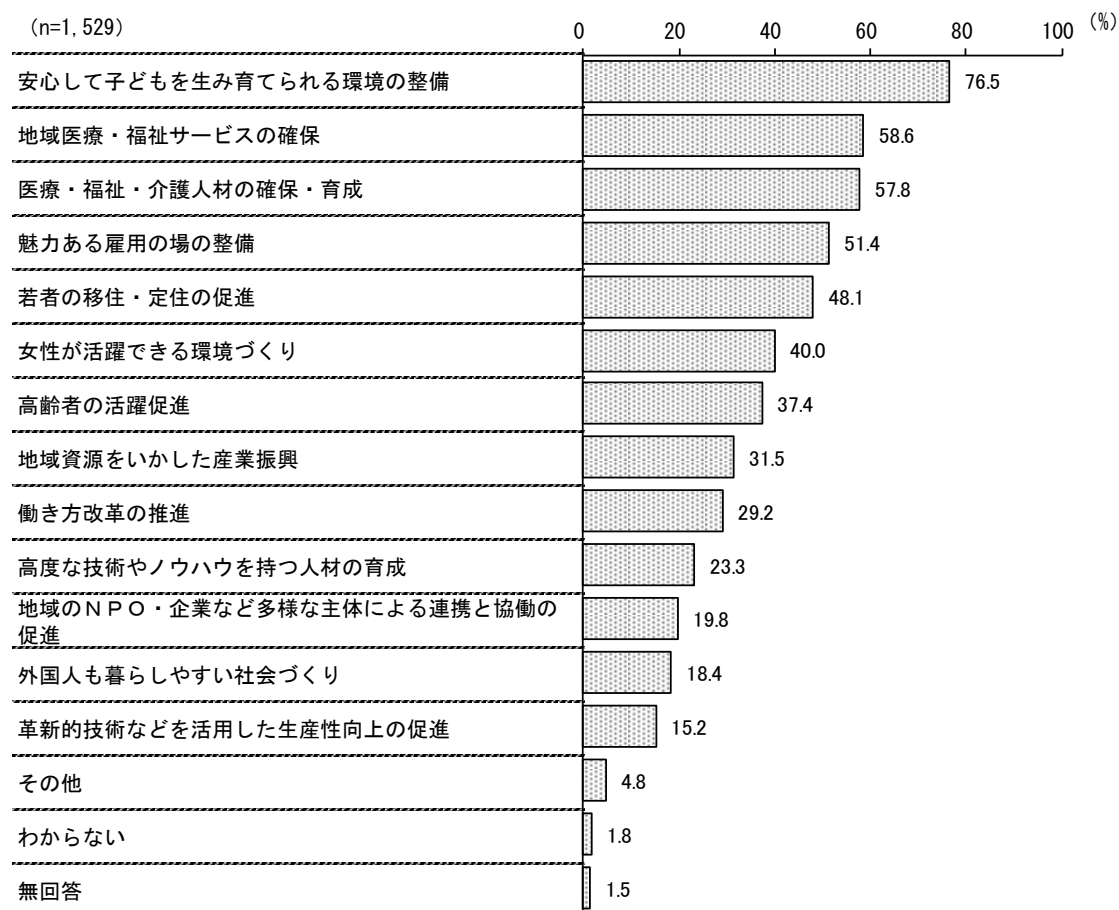


## (15) 人口減少の対策として県で必要な取組

◇「安心して子どもを産み育てられる環境の整備」が7割台半ば

問15 千葉県の人口は、出生数の減少や死亡数の増加などにより減少傾向にあります。今後、人口減少が進行すると、高齢化の進展とあいまって、働き手の減少や経済規模の縮小など、経済社会に影響を与えることが懸念されています。そうした中で、これからの千葉県はどのような取組が必要と考えますか。（〇はいくつでも）

<図表1-29>人口減少の対策として県で必要な取組



人口減少の対策として県で必要な取組を聞いたところ、「安心して子どもを産み育てられる環境の整備」(76.5%)が7割台半ばで最も高く、以下、「地域医療・福祉サービスの確保」(58.6%)、「医療・福祉・介護人材の確保・育成」(57.8%)、「魅力ある雇用の場の整備」(51.4%)と続く。

(図表1-29)

### 【地域別】

地域別にみると、「安心して子どもを産み育てられる環境の整備」は“東葛飾地域”(81.4%)が8割を超えて高くなっている。

「地域医療・福祉サービスの確保」は“香取地域”(79.2%)が約8割で高くなっている。

「魅力ある雇用の場の整備」は“長生地域”(71.8%)が7割を超え、“印旛地域”(58.7%)が約6割で高くなっている。(図表1-30)

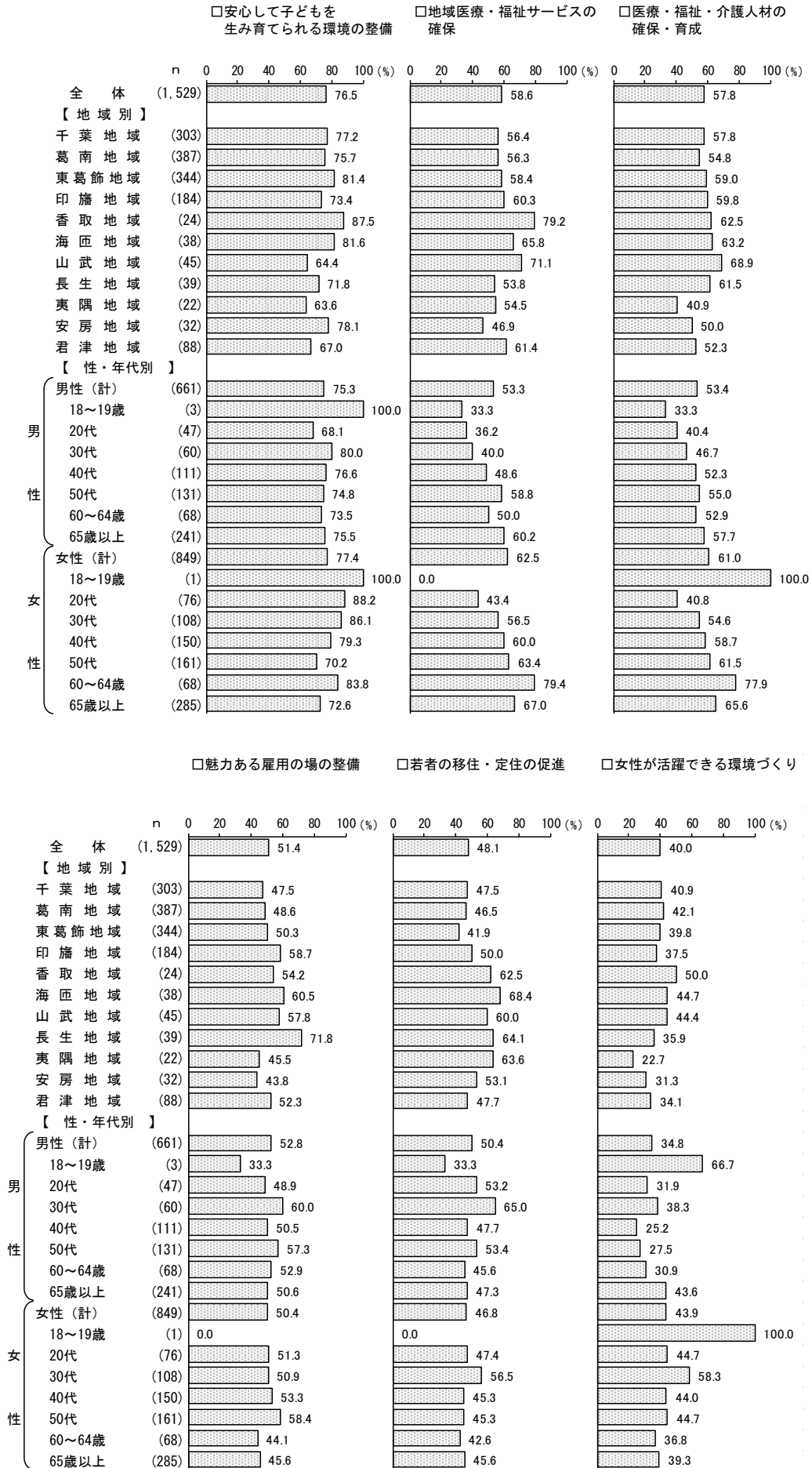
**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「安心して子どもを産み育てられる環境の整備」は女性の20代（88.2%）が約9割、女性の30代（86.1%）が8割台半ばで高くなっている。

「地域医療・福祉サービスの確保」は女性の60～64歳（79.4%）が約8割、女性の65歳以上（67.0%）が約7割で高くなっている。

「医療・福祉・介護人材の確保・育成」は女性の60～64歳（77.9%）が約8割、女性の65歳以上（65.6%）が6割台半ばで高くなっている。（図表1-30）

<図表1-30>人口減少の対策として県で必要な取組／地域別、性・年代別





このほかに、県が今後力を入れていくべき分野や取組について、ご意見があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、385人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県政全般に関する意識調査」の自由回答（抜粋）

- withコロナを念頭に入れた新しい生活様式の模範を行政が先頭に立ち示していただきたいです。また、行政にだけ頼るのではなく、千葉県民として自分たちの今後を守るために色々協力できることがあればぜひ発信いただき、協力を求めています。  
(男性、30代、山武地域)
- 多様性の尊重は地域のPRになるとともに人口の増加にも多少なりとも寄与するのではないのでしょうか。  
(男性、20代、印旛地域)
- 行政からの情報をスマートフォンなどから得る機会が増えているが、高齢者などのデジタル機器の操作に慣れていない方々にも分かりやすい操作方法の周知、共有に力を入れていくべきだと思う。  
(女性、20代、印旛地域)
- 千葉県にも技術特区など新技術を体験出来るような場所を確保し小学生から身近に触れられる環境をつくってほしい。ソフト面やハード面の双方からアプローチ出来るような人材の育成に力をいれてほしい。  
(男性、40代、東葛飾地域)
- チーパスなどで子供に支援を行なっているなら学生にもなにか支援をあげて欲しい。チーパスのような学割が受けられるカードを配布するなどもう少し学生に支援をいろんな形でしてあげて欲しい。  
(女性、20代、印旛地域)
- 子育て世代を支援して行かないと今後高齢化が進み、ますます少子化が進みます。子育てしている働き世代の家庭に対し、県からの支援が必要だと思います。  
(女性、30代、葛南地域)
- コロナで不安定になった経済・雇用の持ち直し。  
(男性、30代、東葛飾地域)
- 高齢者が安心してコミュニケーションがとれる場所があれば嬉しい。  
(女性、65歳以上、東葛飾地域)
- 過疎地域での病院、医療の充実。高齢者が免許返納後に困らない環境作り。  
(女性、60～64歳、夷隅地域)
- 災害被害への早期対応の実施。低価格老人ホームの増設。  
(女性、65歳以上、印旛地域)